長崎県文化財調査報告書 第148集

長崎県埋蔵文化財調査年報５

〔平成８年度調査分〕

１９９８

長 崎 県 教 育 委 員 会

はじめに

長崎県教育委員会では，平成４年度から県下で行われた発掘調査のなかで，県が中心となって調査を行った遺跡の概要を年報として刊行しております。平成８年度も多くの発掘調査が行われ，大きな成果をあげることができました。

これらの発掘調査の多くは増加する種々の開発に伴うものですが，各開発部局との協議の結果，計画変更・工事面積の縮小といった遺跡保護・保存の努力もいたしております。

今後とも，埋蔵文化財の保護・保存への御理解をお願いいたしますとともに本書がそのための一助になれば幸いです。

最後になりましたが，本書刊行に際して御協力をいただいた関係各位に厚く御礼申しあげます。

平成10年３月31日

長崎県教育委員会教育長　　中　川　　忠

例　　言

1．本書は，長崎県における埋蔵文化財保護行政の現状と，長崎県教育委員会が平成８年４月１日から平成９年３月31日までに実施した22箇所の発掘調査の概要を収録したものある。

2．平成７年度分より壱岐・原の辻遺跡調査事務所関係の発掘調査については，調査事務所の調査年報に概要を収録することになっている。

3．各遺跡の調査担当者と調査概要の文責については，各々の文末に記した。

4．本書の編集は，県教育委員会文化課文化財保護主事小松旭・宇土靖之が行った。

本　文　目　次

はじめに

Ⅰ　長崎県の埋蔵文化財の動向

1　埋蔵文化財保護行政の現状 …… 1

2　県の事業について …… 2

3　県内の研究活動について …… 4

4　調査の動向 …… 5

5　平成４年度から平成８年度の県市町村別職員数・発掘届等件数 ……11

6　全国及び長崎県の発掘届等件数・発掘調査担当者数の平均 ……12

Ⅱ　各遺跡の調査概要

平成８年度長崎県内発掘調査箇所市町村別位置図 ……13

①越高浜遺跡　（上県町）　……14

②金田城跡　（美津島町）　……15

③宇久松原遺跡（宇久町）　……16・17

④笛吹浦遺跡　（若松町）　……18

⑤石田城跡　（福江市）　……19

⑥大浜遺跡　（福江市）　……20

⑦家の上遺跡　（玉之浦町）……21

⑧石橋遺跡　（大島村）　……22

⑨千里ヶ浜遺跡（平戸市）　……23

⑩平野遺跡　（福島町）　……24

⑪広久保遺跡　（江迎町）　……25

⑫猪調遺跡　（江迎町）　……26

⑬小川内遺跡　（江迎町）　……26・27

⑭草ノ尾遺跡　（吉井町）　……27

⑮狸山支石墓群周辺　（佐々町）　……28

⑯石坂遺跡　（世知原町）……29

⑰大野原遺跡　（有明町）　……30・31

⑱稗田原遺跡　（島原市）　……32・33

⑲宿城跡（鍵峰城跡）（瑞穂町）　……34

⑳陣の内遺跡　（瑞穂町）　……35

㉑原山支石墓群　（北有馬町）……36

㉒下茅場遺跡　（西彼町）　……37

Ⅲ　平成８年度埋蔵文化財発掘届・発見届一覧表 ……38

Ⅳ　平成８年度新規発見遺跡地図 ……43

Ⅴ　平成８年度市町村別調査一覧表 ……45

Ⅵ　平成８年度埋蔵文化財調査遺跡地図 ……49

Ⅰ　長崎県の埋蔵文化財の動向

1．埋蔵文化財保護行政の現状

平成８年度に提出された工事届件数は157件，発掘届件数265件で，それに対する対応は，発掘調査108件・工事立会53件・慎重工事23件・その他となっている。事業別に見ると，住宅建設・宅地造成工事等が31件と最も多く，農業関連事業29件，道路建設14件，その他の事業34件で計108件の発掘届が出ている。この順番はこの数年来変わらない。また，発見された遺物の出土量は，1,048箱（パンコンテナ数）を数え，全国規模からすると少ない。一方，県内における埋蔵文化財担当職員数は，県文化課埋蔵文化財班で13名・原の辻遺跡調査事務所６名の計19名（内嘱託３名），市町村・市町村教育委員会で８市18町で39名（内嘱託５名）が配置されている。毎年僅かづつ増加傾向にあるが，配置率は約33％に過ぎない。

発掘調査の対応は，埋蔵文化財担当職員が未配置町村については県が対応しており，県の単独事業の増加傾向の中で，未配置町村の発掘調査事業まで県が十分に対応出来ない状況下にある。文化財保護については，地方自治法第二条および文化財保護法並びに地方教育行政の組織及び運営に関する法律等に明文化され，文化財については市町村は基礎的な地方公共団体として地域の特性を生かした行政を行い，都道府県は各々を包括する広域の地方公共団体として行政を行うものと認識している。埋蔵文化財については，地域性の強い文化財でもあるので，本来的には当該市町村が調査に当たることが望ましいが，国，県，市町村，公社・公団，民間事業等に伴う開発事業が増加傾向の中で，県と市町村との役割分担をして対処しているのが現状であるが，さらに役割分担等の見直しを含めて発掘調査の円滑・迅速な対応を図ることが必要であろう。その中で，市町村の依頼を受けて県が発掘調査事業を担当する場合に，専門職員が配置された市町村と未配置の市町村との事業においては，現実的に対応が異なるのは必定であろうし，未配置の町村においては地域の事業が円滑に実施出来ない場合も生じることになる。このような状況の中にあって未配置町村においては，地元の文化財は地元で管理する必要性からしても，埋蔵文化財担当専門職員の配置を促進する必要があろう。また，各地方公共団体の対応能力を越えるような発掘調査事業の対応については市町村相互間での専門職員の相互出向や派遣等を行うような体制

表１　開発事業別発掘届等件数

	区　分	平成8年
緊急調査	道路	14
	鉄道	0
	空港	0
	河川改修	1
	ダム建設	0
	学校	2
	住宅・宅地	31
	区画整理	3
	その他建物	9
	ガス・電気・水道	1
	工場	2
	農道関連	29
	ゴルフ場	0
	土砂採取	0
	その他開発	7
	観光開発	0
	自然消滅	0
	整備	2
	確認試掘	4
	公園	3
学術調査		0
合計		108

の整備に努めることも必要であるとの文化庁の指導も受けており，市町村相互での支援体制も含めて検討し対処することが必要であろう。

2　県の事業について

平成８年度の県が実施した事業については以下のとおりである。

(1) 埋蔵文化財の開発に伴う現地踏査及び発掘調査

諸々の開発行為に伴い現地踏査を実施し，その結果に基づいて埋蔵文化財の取扱いについて協議を行い文化財の保護・保存に努めている。協議の結果，範囲確認調査や緊急発掘調査を実施している。今年度の対応は，開発行為に伴う現地踏査の実施と国道，県道改良工事に伴う笛吹浦遺跡（若松町），桟原城跡（厳原町），稗田原遺跡（島原市），大浜遺跡（福江市）の発掘調査，川内港海岸環境計画に伴う千里ケ浜遺跡（平戸市），五島高校舎新築工事に伴う石田城跡（福江市）等の発掘調査を実施した。また，県内遺跡調査として広久保遺跡，猪調遺跡，小川内遺跡（江迎町），石橋遺跡（大島村）の農業基盤整備事業の範囲確認調査を実施した。

県内各市町村事業として県が調査担当及び応援し実施した主な遺跡は，次のとおりである。

遺跡整備事業関係　金田城跡（美津島町），原城跡（南有馬町），日野江城跡（北有馬町）

圃場整備事業関係　鍵峰城・陣の内遺跡（瑞穂町），草ノ尾遺跡（吉井町），佃遺跡（国見町），橘遺跡（福江市），下茅場遺跡（西彼町），水崎遺跡（美津島町）等

個人の宅地造成　宇久松原遺跡（宇久町）等

その他の開発　平野遺跡（福島町），大野原遺跡（有明町），辻貝塚（加津佐町）等

以上の発掘調査事業のほかに，調査終了した遺跡の報告書刊行事業を行った。

これらの発掘調査事業は報告書の刊行をもって事業完了となるが，刊行までには発掘調査に従事した期間と同等かそれ以上の整理期間を必要とする事業である。

(2) 埋蔵文化財普及啓蒙活動の推進

埋蔵文化財発掘技術研修事業

平成８年度は，埋蔵文化財発掘技術者研修の基礎研修Ⅰ，Ⅱ，専門研修と県市町村文化財担当者会議を実施している。

基礎研修Ⅰは，文化財保護法の解説及び開発と遺跡の取り扱いについての調整，協議等の説明及び文化財の保護・保存についての協力をお願いしている。今年の研修は，６月３日から13日まで，各教育事務所単位で実施し約190名の参加者であった。その対象は各市町村教育委員会の文化財担当者や当該地区の県・市町村の開発担当部局職員である。

基礎研修Ⅱは，遺跡での発掘調査に必要な測量等の実務体験を主とした研修で，今年は11月20日から22日まで国見町の佃遺跡において開催した。（対象者は，基礎研修Ⅰ同様）

専門研修は，８月20日から23日のまでの４日間，長崎大学医学部を会場として開催した。研修の内容は，長崎大学医学部解剖学第二教室長島聖司教授による「古人骨研究，古人骨の形態から何がわか

るか」と同教室分部哲秋講師による「ヒトの骨格，人骨の計測・観察，古人骨発掘上の注意について，同大医学部解剖学教室で，実際の人骨を手に取りながらの実習，講義であった。また，別府大学文学部本田光子助教授による「古代の顔料について～墳墓出土赤色顔料を中心として～」と題した講義も行われた。受講生は，各市町村教育委員会の文化財担当者，県内の小・中・高校教職員，県文化財保護指導委員など約50名の参加者があった。

県内市町村文化財担当者会議は，文化庁文化財保護部記念物課後藤治調査官を迎えて，９月20日に県庁新別館において開催され，102名の県内各市町村文化財担当者が参加した。会議内容は，文化財登録制度の導入，指定都市等への権限委任等及び市町村の役割の明確化重要文化財等の活用の促進等の文化財保護法の一部改正について，文化庁から説明が行なわれた。また，平成６年度から検討していた『九州地区埋蔵文化財発掘調査基準』が平成８年７月に九州各県・政令指定都市文化行政主管課長において承認されたので，調査基準の内容についての説明や登録文化財についての説明，国庫補助事業等の事務連絡等があった。

(3) ふるさと古代遺産保存継承事業

①主要遺跡内容確認調査事業

平成３年度から平成７年度までの５年間，16遺跡について重要遺跡範囲確認調査（カルテ事業）を実施し，諸開発事業との協議のための基礎資料を作成してきた。

今年度からは，事業趣旨を引き継いで，新たに６年間継続の主要遺跡内容確認調査事業を実施することになった。今年度は，韓国新石器時代の櫛目文土器が出土する縄文時代の上県町越高浜遺跡の調査を８月26日～９月13日に，縄文時代の墓域である佐々町狸山支石墓（県指定史跡）周辺部の調査を８月26日～30日に，北有馬町原山支石墓群（国指定史跡）の調査を７月８日から８月30日にかけて調査を実施した。その調査結果に関しては，本書に掲載している。

②体験発掘講座「タイムスリップたんけん隊」事業

今年度から３年間継続事業として，親子で遺跡調査に参加することにより郷土の文化財に対する親しみと興味を喚起してもらうことの趣旨で，タイムスリップたんけん隊を毎年３箇所の遺跡で実施することになった。

今年度は，７月25日に北有馬町の原山支石墓群，10月12日に福江市の橘遺跡，11月９日に芦辺町・石田町の原の辻遺跡で実施し，約180人の多数の親子の参加があった。

(4) 『原始・古代の長崎県』の編纂事業

３年計画の『原始・古代の長崎県』の「資料編Ⅱ」が刊行された。この内容は，本土編として県本土の主要遺跡を収録したものである。平成７年度は「資料編Ⅰ」として対馬，壱岐，五島列島など離島の遺跡を収録・刊行し，平成９年度には「通史編」を刊行する予定である。

（5）原の辻遺跡発掘調査事業及び保存活用事業

①発掘調査事業

幡鉾川流域総合整備計画に伴う原の辻遺跡緊急発掘調査において，古墳時代にかけての主な遺構である柱穴，旧河道と考えられる自然流路，濠跡，水路である溝，船着き場跡，通路と考えられる石組遺構水田畦跡が検出された。特に，日本及び東アジア最古の弥生中期に構築された船着き場跡は，敷粗朶工法という高度な土木技術を用いたものとして注目されると共に，国内では山口県周防国府跡の船着き場跡遺構が最も古い時期の所産とされていたので，いっきに弥生時代まで遡ることになる。また，幡鉾川河川改修工事に伴う原の辻遺跡緊急発掘調査では，弥生時代の旧河道，溝状遺構，濠跡が検出されたほかに近世の幡鉾川の旧河道が確認された。

平成７年度から継続事業の原の辻遺跡範囲確認調査は，原の久保Ａ地区の弥生中期の墓域調査で甕棺墓，石棺墓，土壙墓等26基と後漢鏡等の遺物が出土した。また，原地区の調査では弥生時代から古墳時代にかけての竪穴住居跡，柱穴，濠跡，溝，甕棺墓が検出された。

以上の発掘調査は，原の辻遺跡調査事務所が実施し，今後報告書刊行を予定している。

②保存活用事業

原の辻遺跡は，遺跡の重要性に鑑みて，平成８年12月に国史跡の指定申請を芦辺町・石田町長から文部大臣に提出した。

原の辻遺跡の国史跡をめざして，シンポジウム「魏志倭人伝と一支国」　～甦る一支国の王都　原の辻遺跡～　を平成９年２月15日に長崎市民会館文化ホールにて開催した。また，併せて原の辻遺跡から出土した遺物や遺構パネル等を同ホールに展示を行った。内容は，原の辻遺跡調査事務所安楽勉課長による原の辻遺跡の成果報告。基調講演「魏志倭人伝を証明する原の辻遺跡」の演題で大阪府立弥生文化博物館金関恕館長の講演がなされた。そして，佐原真・国立歴史民俗博物館副館長（現館長）の司会で，金関恕，高島忠平・佐賀県教育庁文化財課長（現教育次長），里中満智子・漫画家，岡村道雄・文化庁記念物課主任文化財調査官，田川肇・原の辻遺跡調査事務所長の講師による討論が行われた。

壱岐・原の辻展示館の入館者は，平成７年４月の開館以来今年度３月末日まで195,299人を数えた。

３　県内における研究活動について

長崎県考古学会の春の総会が，大村市で行われた。大会は，「縄文晩期から弥生初頭における各地域の文化的様相」をテーマに宮崎貴夫原の辻遺跡調査事務所員の司会で，大野安生大村市教委，中島直幸唐津市，吉留秀敏福岡市教委，清田純一城南町教委によるパネルディスカッションが行われた。前日には研究発表や新資料報告が行われた。秋の大会は，諫早市で「低地遺跡と考古学」のテーマで秀島貞康諫早市教委の司会，長岡信治長崎大学助教授，西田厳佐賀市教委，川瀬雄一諫早市教委によるパネルディスカッションと研究や事例発表が行われた。　（県文化課　副島和明）

4　調査の動向

［旧石器時代］

県内で旧石器を主体とする調査は行われていない。松浦市の田川遺跡Ｂ地点は，縄文時代を主体とする遺跡であるが，黒曜石製のナイフ形石器，台形石器などが出土している。縄文時代の石器とともに出土しており，包含層は攪乱された状況にあるという。遺跡は昨年度調査したＡ地点から百数十ｍ離れた地点で，Ａ地点のナイフ形石器の一部に古い様相を示すと思われる小形のナイフ形石器が散見できるのに対し，Ｂ地点の遺物は角錐状石器などを伴い，やや後出のものと考えられる。また，Ａ・Ｂ地点の台形石器には，日ノ岳遺跡２層出土の平坦剥離の台形石器や，３層出土のいわゆる日ノ岳型台形石器などがあり，時間幅を感じさせる。

［縄文時代］

島原半島と五島列島を中心に調査が行われている。島原半島北側に位置する瑞穂町陣の内遺跡では，縄文後期の御領式土器の一括資料として，深鉢形土器・浅鉢形土器や蛇紋岩製の石ノミが出土しており，この時期の好資料を提供している。また，島原半島の北側に位置する有明町の大野原遺跡は，縄文後期後半の三万田式土器を主体とする遺跡であるが，この遺跡の土器の量は膨大なもので石器もかなりの数が出土している。土器はほぼ三万田式土器単純であり，ピット群と共に焼土が多数検出されたため，周辺に住居跡等の発見が期待される。石器は黒曜石製の縦長剥片が多数出土しており，この時期まで鈴桶技法の影響を看取することができる。また，平成９年度の調査では，土器を焼成したと思われる遺構や，粘土を保存したとされる坑などが検出され，全国的にみても貴重な遺構として注目をあびている。この点については今後の報告を待ちたい。

島原半島の南側に位置する北有馬町の原山遺跡は，支石墓が群集していることで著名であり，国指定史跡として知られる。県文化課では昭和54年の調査で検出された第３支石墓群（楠峰地点）の拡がりを見るため，周辺の樹木の伐採と表土剥ぎを行った。その結果，現在検出されている支石墓群の南側では確実な支石墓の検出はなかった。ただし支石墓の石材と思われるものが一部散乱しており，以前開拓時に多くの石をこの場所から運び出したという事実から，本来はかなりの数の支石墓が存在したものと思われる。遺物は扁平打製石斧や黒曜石の剥片類が出土したが，量的には少数であり住居跡などの生活跡を捉えるまでにはいたっていない。標高 245ｍの高所にあるこの遺跡については，その性格についていくつかの論考もあり縄文晩期の生活空間と墓跡の関係を知るうえでも重要な意味合いをもつ。

島原市所在の稗田原遺跡は県道拡張工事に伴い，過去３回の調査が行われ，古式土師器を出土する住居跡や，縄文早期から中世に至る土器，陶磁器が出土していた。今回の調査では，縄文晩期中葉から後葉の遺物を主体としている。遺構は，ピット群が検出されており住居跡のピットの可能性もあるが，道路の拡張部分だけの調査で現在の段階では判然としない部分がある。遺物については，突帯文土器や黒川式土器などが出土し，石器については扁平打製石斧や，横刃型のスクレイパーの出土など，初期農耕との関係を考えさせるものが多い。

五島列島の福江市所在の大浜遺跡では縄文後期を主体とする遺物が出土している。遺跡は北側にそびえる鬼岳山を起源とする溶岩台地の末端に形成され，遺物は溶岩塊の風化した礫層中に包含されている。鹿やイノシシなどの獣骨やクジラやアシカなど海獣などの骨もみられ，これらを加工したT字形釣針や，アワビおこしなどの骨角器が出土している。土器は阿高式系土器・出水式・鐘崎式・北久根山式土器を主体とし，剥片鏃や縦長剥片等，西北九州の縄文後期を代表する遺物を主体とする。このことから，先に中島遺跡としていた遺跡もこの大浜遺跡，あるいは中島遺跡の一部であることが理解できる（今回の調査により，縄文時代の遺跡の拡がりが従来の中島遺跡から今回調査した大浜遺跡まで拡がることがわかった。このことにより今後遺跡名の統一が必要となろう）。晩期は黒川式土器を主体とし，後期同様獣骨が出土している。

五島列島宇久町の宇久松原遺跡では，縄文時代終末から弥生時代初期にかけての支石墓6基，土壙墓2基，甕棺墓2基が出土した。また，この時期には出土が稀な人骨が支石墓より3体，土壙墓から4体出土しており，形質人類学上においても重要な資料を提供している。遺物は夜臼式土器や，朝鮮半島の影響を受けたと思われる丹塗の小甕などが出土している。小甕は，朝鮮半島の無文土器に類似しているが，内面に条痕をもつことや，台状の底部など縄文晩期土器の影響が強いことなど，半島系の土器と縄文土器との折衷様式と考えられる。土壙墓から出土した人骨のうち1体は，両腕に南海産のオオツタノハの貝輪を着装していたことなど，この時期の交流の広さを考えるうえでも注目された。

［弥生時代］

国見町教育委員会では，町道拡幅に伴い佃遺跡の調査を行った。遺跡は，雲仙山系から放射状に延びる丘陵地帯の末端に位置した標高15mの沖積平野上にある。表土下約2mで安山岩の基盤に達するが，この基盤岩を掘り抜いてドングリピット約 100基が検出された。遺物が弥生後期の土器を主体とすることから，ドングリピットもこの時期に帰属するものと考えられる。ドングリピットは，通常の袋状のものと，袋状に削り出した底面に直径4～5cmの小ピットを壁際に円を描くように密に配列した二重構造のものが多数確認されており，その意味について論議をよんでいる。遺構検出面は，従来のドングリピットと同様に旧河川沿いに配置されており，水利用の施設と考えざるを得ない。ただ，通常のドングリピットの位置と特殊なピットを持つ一群とは場所を異にするなど，今後考証すべき点が多い。

大村市の富の原遺跡は以前の調査で，鉄戈・甕棺墓・住宅跡・祭祀遺構等が出土し，県内でも有数な弥生時代の遺跡として知られていた。今回の調査は建設機械会社の資材置き場の建設に伴うものである。調査の結果，弥生中期後半の掘立柱建物跡2棟以上，丹塗の甕棺や石棺墓などが発見されている。掘立柱跡は，倉庫群として位置づけされており，以前の調査結果との照合により富の原遺跡の遺構が解明されるものと期待される。

［古代］

五島列島では，先に縄文時代の遺跡として紹介した大浜遺跡があげられる。五島の古代の遺跡

は，小値賀町を中心に僅かに知られているだけであるが，五島列島は遣唐使の最後の寄港地として知られており，これに関連する遺跡の調査が望まれていた。大浜遺跡は，昭和37年に同志社大学を中心に発掘調査が行われ，弥生中期の配石遺構とともに，牛の歯が発見され弥生時代にすでに牛が存在したことを裏付けるものとして話題を呼んだ。これは「魏志倭人伝」に牛馬なしと記されたことと相反することとして非常に重要な発見であった。その後，大浜遺跡については調査が行われなかったが，県道拡幅工事に伴い県文化課が11月より調査することとなり，弥生時代の牛歯の出土に期待が寄せられた。調査地は，同志社大学の調査地点より，東に約50mほど離れた地点である。北へ150m先には縄文時代後期のドングリピットが出土したことで有名な中島遺跡が拡がる。また遺跡の南側は砂浜で海水浴場となっており遺跡の標高は１m前後を測る低位置にある。遺跡は砂丘上にあり，この部分は砂丘部でもやや低地にあたる。調査によりこの低地にさらに湿地が形成され，そこに水が供給されて沼を形成した状況を呈していた。沼の形成は沼の低部より弥生時代後期の配石遺構が出土したことから，少なくともそれ以降に形成されたものと考えられる。この沼地からは先述した弥生の配石遺構や４世紀初頭から12世紀までの遺物が出土している。４世紀初頭の遺物としては鼓形器台が出土しており，長崎県下でも壱岐に続き２例目の出土である。当地と大和政権との関わりを示すうえでも貴重な資料となろう。現在まだ整理中で５世紀代の遺物については判然としないが，６世紀から10世紀代の遺物として，須恵器杯，杯蓋，壷，高坏などを主体とし，９世紀代の緑釉陶器や朝鮮半島の印花紋土器，越州窯の磁器などが出土している。また，自然遺物も馬や牛などの獣骨を中心に大量に出土しており，この遺跡が中央とのなんらかの関わりの中で営まれていたことを示唆しているといえよう。これらの遺物は沼地に投棄した形で出土していることから，古代の祭祀遺構として捉えることもできる。その根拠として一つの例であるが，出土した馬の頚骨に鋭い傷が残り，馬の首を切り落としたことが考えられるものや，緑釉陶器など本県では稀な遺物の出土からもその可能性を考慮しなければならないであろう。今回の調査では，この投棄の場として考えられる沼地以外は調査していないため，遺構等は発見できなかったが，この北側になんらかの公の施設があった可能性が考えられる。この時期は，中央がちょうど遣唐使を派遣していた時期にもあたり，直接あるいは間接的にこの大浜遺跡が関わりをもっていたのではないだろうか。

対馬美津島町に所在する特別史跡金田城跡は環境整備事業のため，平成５年より調査を行い今回で４回目の調査となる。金田城は，新羅の日本侵攻を防ぐ目的で，天智天皇のとき667年に築造され，朝鮮式山城の形式をとっている。城は浅茅湾にそびえる標高274.9mの城山に築城されており，調査地点は，標高83mを測る通称ビングシ山で，城山の南東側に張り出したテラス状の地形をなしている。平成５年度の調査では礎石や礎石下の石列遺構，平成６年度の調査では１間×３間の掘立柱建物跡が，平成７年度の調査では柱穴や焼土が確認されていた。今回の調査では，調査区を台形に取り囲む柱穴群が確認され，形や掘方の違いから３つのグループに分けられている。このうちのピットの１つから採取した炭化物の放射性炭素年代は，紀元630年前後の年代値を示しており，７世紀後半に築城された金田城の遺構の中にそれ以前の遺構が存在する可能性が指摘されてい

る。調査者は，平成５年度の調査で出土した石列遺構なども７世紀前半の遺構の可能性が高いとし，新旧２時期の遺構の存在を考慮しなければならないとしている。遺物については須恵器を中心に約90点出土し，ほぼ７世紀後半のもので占められるようである。

［中世］

北有馬町に所在する国史跡日野江城跡は，環境保護事業の一環として内容の確認調査が行われている。日野江城跡は在地の豪族有馬氏が築城した平山城で，標高78mの低丘陵上に位置している。有馬氏については，13世紀中葉頃にその名が初見されるが，その出自については不明な点が多い。

有馬氏のなかでも特にキリシタン大名として名を馳せた有馬晴信の名はあまりにも有名である。現在までの調査の成果として，二ノ丸部分の調査で，大手門から続く階段遺構の確認，土師器皿や坏を一括廃棄した土壙，礎石などが確認されている。遺物には，明染付（16世紀代），土師器などが主体であるが，羽口や坩堝などが一括出土した地点などもあることから，城内で鍛冶が行われたことを示すものとみられる。また階段遺構については，時期差のある２つの階段遺構が出土している。今後の調査でさらに築城年代，一国一城令による閉城や島原の乱の際の幕府軍の拠点となったことなど，日野江城がたどった数百年の歴史が解明されるものと期待される。

［近世］

長崎市では近年，ビルの建て替え工事が相次ぎ，それに伴う発掘調査が行われている。長崎市教育委員会の調査が山町遺跡・唐人屋敷Ｂ・出島和蘭商館跡，長崎市埋蔵文化財調査協議会が瀬古窯跡・亀山焼窯跡・桜町遺跡，長崎県文化課が桜町遺跡の調査を行っている。このうち出島和蘭商館跡は，出島復元整備事業計画の一環としてその復元・整備を本年度から実施したもので，南側の石垣の顕在化を図るために今回の調査実施となった。出島は1634年から２年をかけて築造された扇形の人工島で，調査区は扇形の上の部分にあたる。遺構としては旧通路面・集積・石列・石垣が検出された。石垣については，表土下２ｍの地点で東西7.8mにわたって検出され，平均４段，全高1.2～1.5mほど残っていた。往時の石垣の高さは約2.8mと推察され，上部1～1.5mが破壊されていたことになる。石積み技法から，出島築造当時のままの可能性が高いとしている。遺物は，染付皿・輸出用伊万里磁器・コンプラ瓶・中国磁器・国産陶器のほか19世紀初頭にオランダ・マーストリヒト窯，イギリス・ドーソン窯で焼成された銅版転写磁器，ドイツ産塩釉拓器（ジンボトル）などが出土している。また，牛・ヤギ，あるいは馬と考えられる骨等も出土しており，出島での当時の生活の状況が把握される。

［県文化課　福田一志］

［ 文 献 一 覧 ］

［論文その他］

各時代にわたるもの

1．長崎県教育委員会　『原始・古代の長崎県』－資料編Ⅱ－

2．長崎県考古学会　『長崎県考古学会会報』No.4

旧石器時代

3．渡辺康行　「佐世保市東浜遺跡の旧石器」『地域相研究』第24号

縄文時代

4．川道　寛　「長崎県北松浦郡宇久松原遺跡の調査」『考古学ジャーナル』No.４４１

5．山下　実　「長崎県波佐見町根比呂池採集の耳飾り」『地域相研究』第２４号

弥生時代

6．長崎県教育委員会　『シンポジウム　魏志倭人伝と一支国』～甦る一支国の王都　原の辻遺跡～

【報告書】

各時代にわたるもの

7．川道　寛編　『県内重要遺跡範囲確認調査報告書Ⅴ』長崎県文化財調査報告書　第133集　長崎県教育委員会

8．小松　旭編　『長崎県埋蔵文化財調査年報Ⅳ（平成７年度）』長崎県文化財調査報告書　第135集　長崎県教育委員会

9．中田敦史編　『田川遺跡』松浦市文化財調査報告書　第12集　松浦市教育委員会

10．宮下雅史編　『柿泊遺跡』長崎市文化財調査報告書　長崎市教育委員会

11．大野安生・安部憲毅編　『黒丸遺跡ほか発掘調査概報』Vol.１　大村市文化財調査報告第20集　長崎県大村市教育委員会

縄文時代

12．町田利幸編　『黒丸遺跡Ⅱ』長崎県文化財調査報告書　第132集　長崎県教育委員会

13．福田一志編　『伊木力遺跡Ⅱ』長崎県文化財調査報告書　第134集　長崎県教育委員会

14．村川逸朗編　『稗田原遺跡』長崎県文化財調査報告書　第136集　長崎県教育委員会

15．古門雅高編　『広平遺跡』長崎県文化財調査報告書　第137集　長崎県教育委員会

16．村川逸朗編　『西鬼塚支石墓・石棺群』有明町埋蔵文化財調査報告書　第３集　長崎県有明町教育委員会

17．川道　寛編　『宇久松原遺跡』宇久町文化財調査報告書　第４集　宇久町教育委員会

古代

18．川口洋平編　『椿遺跡』石田町文化財調査報告書　第１集　長崎県石田町教育委員会

中世

19. 川口洋平編　『覩城跡』原の辻調査事務所調査報告書　第３集　長崎県教育委員会
20. 久村貞男編　『武辺城跡発掘調査報告書（第２次）』平成８年度佐世保市埋蔵文化財発掘調査報告書　佐世保市教育委員会

近世

21. 福田一志編　『桟原城跡』長崎県文化財調査報告書　第138集　長崎県教育委員会
22. 甲斐田　彰編『石田城跡』長崎県文化財調査報告書　第139集　長崎県教育委員会
23. 扇浦正義編　『築町遺跡』長崎市文化財調査報告　長崎市教育委員会
24. 扇浦正義編　『興善町遺跡』長崎市文化財調査報告　長崎市教育委員会
25. 中野雄二編　『長田山窯跡』波佐見町文化財調査報告書　第９集　波佐見町教育委員会

体験発掘講座
タイムスリップたんけん隊実施風景

5．平成４年度から平成８年度の県市町村別職員数・開発事業別発掘等件数

表２　埋蔵文化財担当者の年度別・県市町村別職員数

	平成４年		平成５年		平成６年		平成７年		平成８年	
区　分	長崎県	市町村	長崎県	市町村	長崎県	市町村	長崎県	市町村	長崎県	市町村
職員数	12(2)	15(2)	15(2)	16(2)	18(2)	24(2)	16(3)	32(2)	17(3)	34(8)

（　　）は嘱託等を示す外数である

表３　平成４年度から平成８年度開発事業別発掘等件数

		平成４年	平成５年	平成６年	平成７年	平成８年
緊急調査	道路	24	20	32	20	14
	鉄道	0	0	0	0	0
	空港	0	0	0	0	0
	河川改修	9	3	4	4	1
	ダム建設	0	0	0	0	0
	学校	2	2	2	2	2
	住宅・宅地	13	13	29	35	31
	区画整理	2	8	5	2	3
	その他建物	14	12	17	11	9
	ガス・電気・水道	6	10	8	0	1
	工場	3	2	0	0	2
	農道関連	31	16	28	22	29
	ゴルフ場	0	3	0	0	0
	土砂採取	3	1	0	1	0
	その他開発	19	9	12	23	7
	観光開発	2	0	1	1	0
	自然消滅	2	2	0	0	0
	整備	2	9	4	12	2
	確認試掘	3	6	11	0	4
	公園	14	7	5	0	3
学術調査		9	11	10	0	0
合計		161	134	168	133	108

6．全国及び長崎県の発掘届等の件数・発掘調査担当者数の平均

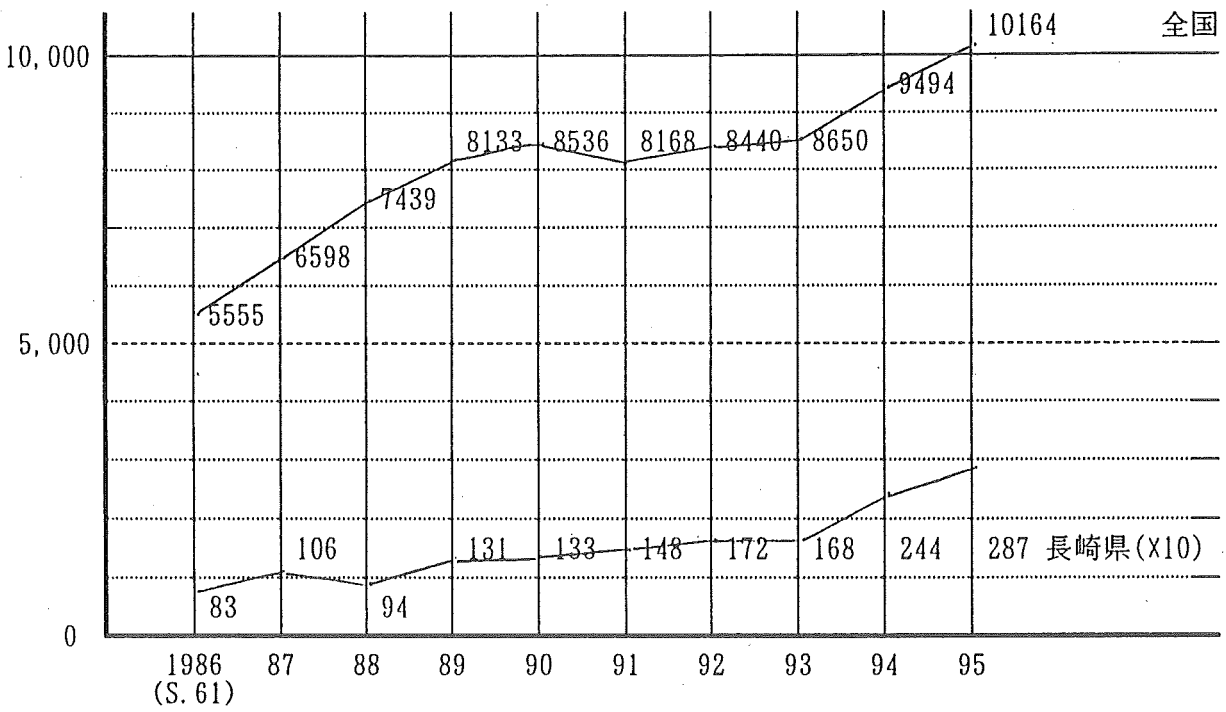


表４ 全国及び長崎県の発掘届等の件数

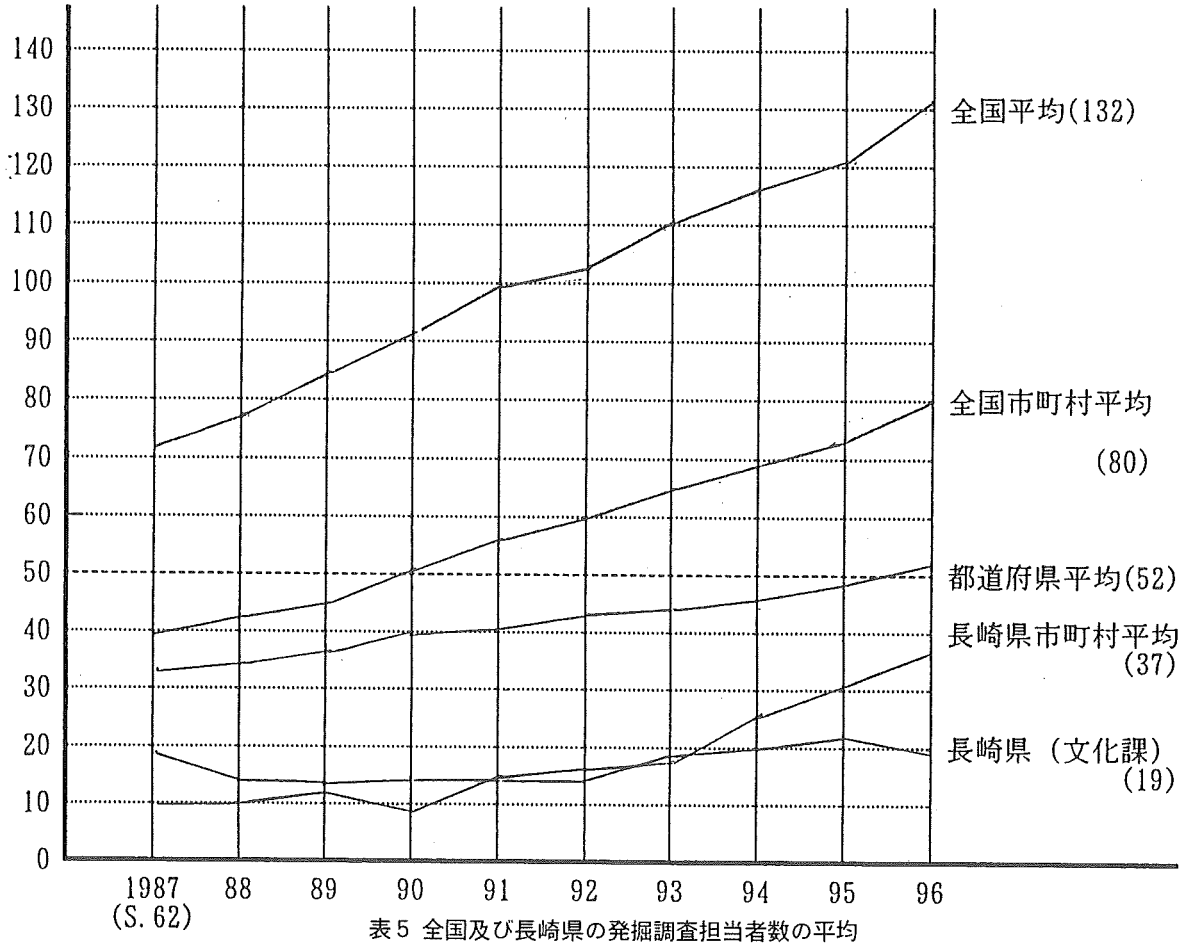
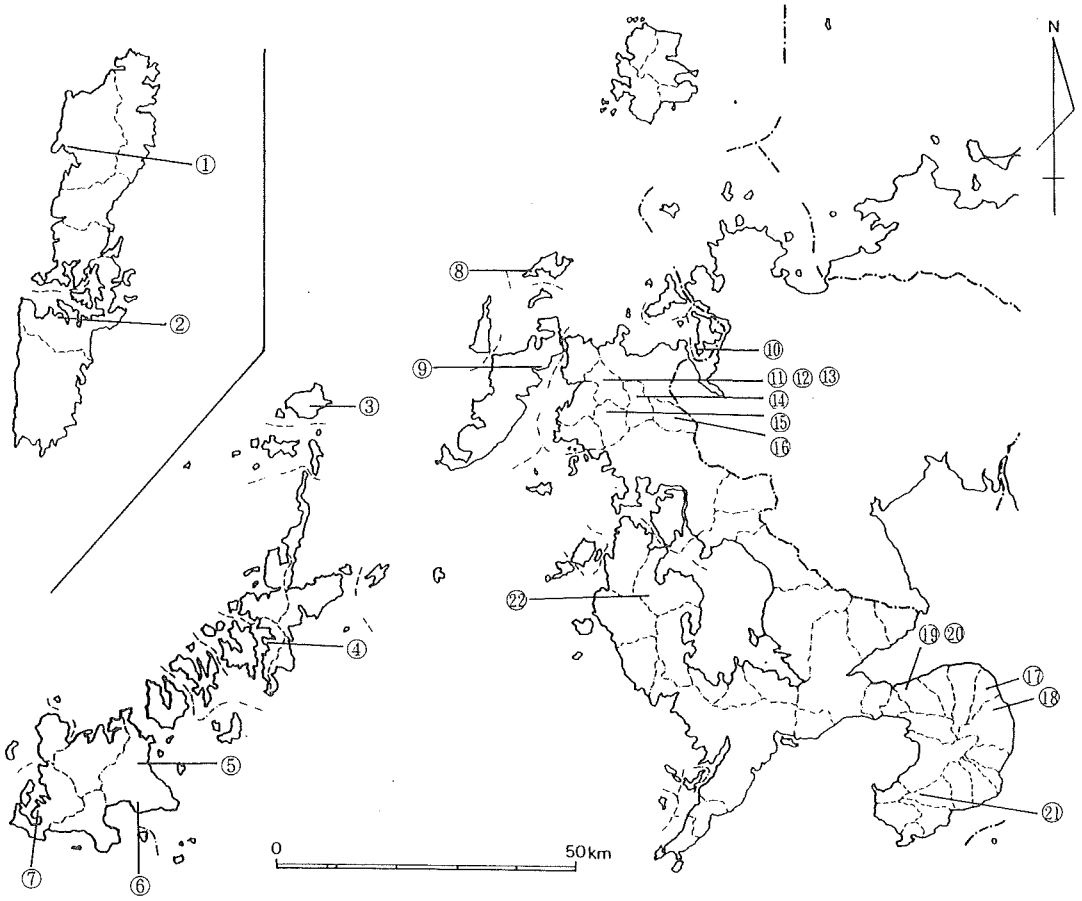


表５ 全国及び長崎県の発掘調査担当者数の平均

Ⅱ　各遺跡の調査概要



平成８年度長崎県県内発掘調査箇所

①越高浜遺跡	（上県町）	⑫猪調遺跡	（江迎町）
②金田城跡	（美津島町）	⑬小川内遺跡	（江迎町）
③宇久松原遺跡	（宇久町）	⑭草ノ尾遺跡	（吉井町）
④笛吹浦遺跡	（若松町）	⑮狸山支石墓群周辺	（佐々町）
⑤石田城跡	（福江市）	⑯石坂遺跡	（世知原町）
⑥大浜遺跡	（福江市）	⑰大野原遺跡	（有明町）
⑦家の上遺跡	（玉之浦町）	⑱稗田原遺跡	（島原市）
⑧石橋遺跡	（大島村）	⑲宿城跡（鍵峰城跡）	（瑞穂町）
⑨千里ヶ浜遺跡	（平戸市）	⑳陣の内遺跡	（瑞穂町）
⑩平野遺跡	（福島町）	㉑原山支石墓群	（北有馬町）
⑪広久保遺跡	（江迎町）	㉒下茅場遺跡	（西彼町）

① 越高浜遺跡（こしだかはま）

所 在 地	上県郡上県町	**調査主体**	長崎県教育委員会
調査原因	県内主要遺跡内容確認調査	**調査面積**	70㎡
調査期間	平成８年８月26日～９月13日	**処　　置**	調査後埋戻し
報 告 書	平成10年３月刊行予定	**遺跡番号**	78-28

立　地

遺跡は上県町仁田湾の北西にあり，南向きの海岸部に位置する。周辺は峻険な山間で，遺跡は山間から堆積する頁岩が大量に供給され２ｍ以上の堆積をみる。この堆積層が波による浸食をうけて最下層では遺物が露出する状況であった。以前は畑地であったこの地域も，波の浸食により狭くなり，現在は荒れ地となっている

グリッド周辺壁面

調　査

越高浜遺跡は過去２回の調査がおこなわれている。地点が二箇所であることから，越高尾崎遺跡と越高浜遺跡として報告され，調査の結果隆起文土器・櫛目文土器などの半島系の土器が多数確認されている。報告では，このとき出土した土器に対して越高式という形式名を設定し，越高式Ⅰ～Ⅴに分類している。またこれらの土器が，縄文土器と共伴することなどから朝鮮半島の土器と縄文土器との接点を考えるうえで貴重な遺跡であることが確認された。今回の調査は先に越高尾崎とした地区に３箇所，越高浜遺跡とした地区に２箇所のグリッドを設定した。ただし，最初に調査したグリッドで２ｍあまり掘り下げたものの包含層までには到らなかった。このことから，調査については浸食された壁面直下と，壁面露出の遺物の採集に終わらざるを得ない状況であった。遺物は，隆線・隆帯・格子目文・刺突文などがあり，過去２回の調査で出土した遺物と大差はない。この他に掻器を含む石器が数点確認された。先述したように，縄文時代の半島系の土器は全国でも出土例が少なく，対馬でも北西部沿岸に確認されるだけである。従って隆起文土器の発生や、縄文前期前後の日本の土器に与えた影響等今後に課された問題点は多い。

［調査担当：福田・東］（文責：福田）

② 金田城跡（かねだじょう）

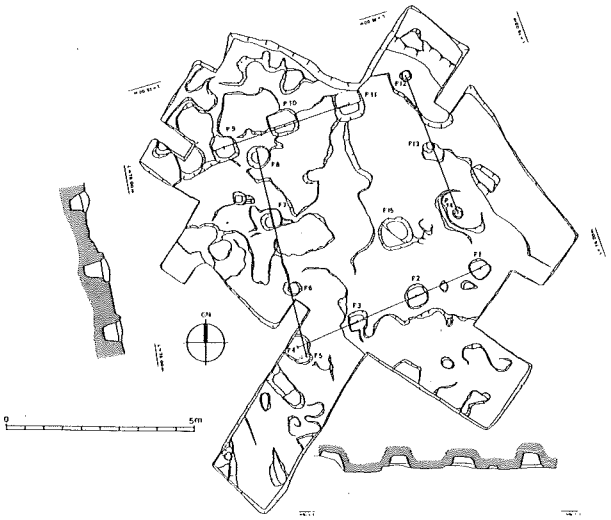
所 在 地	長崎県下県郡美津島町大字黒瀬および箕形地内	**調査主体**	美津島町教育委員会
調査原因	史跡整備	**調査面積**	150㎡
調査期間	平成８年９月24日～10月４日	**処　　置**	調査後埋め戻し
	平成８年10月14日～11月１日	**遺跡番号**	75-12
報 告 書	平成11年度刊行予定		

立　地

金田城は，美津島町の北西部に位置し，浅茅湾の南岸にそびえる標高274.9mの城山に築城されている。今年度の調査地点である通称ビングシ山は標高83mを測り，城山の南東側に張り出したテラス状の地形をなす。

調　査

今年度はビングシ山の南西斜面に階段状になった二つの小平坦地が存在するため，この小平坦地の調査を実施した。それぞれ北からＷ２区・Ｗ３区とした。Ｗ２区は平成６年度調査分のＷ１区の延長となる。



金田城跡Ｗ3出土遺構実測図［S＝1／200］

Ｗ３区では調査区を台形に取り囲む柱穴群が出土した。柱穴は方形にめぐるものではなく，南部が鋭角となる台形を呈する。北側の柱穴列のＰ10から採取した炭化物を放射性炭素年代測定にかけたところ紀元630年前後の年代値を示した。これらの柱穴列は居住を目的とする建物跡ではなく，柵か，それに類した構築物と考えられる。いずれにしても眺望のきく斜面の小平坦地に存在することから，物見や見張りなどといった場の機能が考えられる。

まとめ

今年度はビングシ山の補完調査を実施した。Ｗ２区からは直列した柱穴列が出土した。ほかにも柱穴が存在したが，建物跡として復元できるものではなかった。Ｗ３区からは台形に巡る柱穴列が出土したが，建物跡とは認められなかった。柵列あるいは，それに類した構築物と判断した。

また今回，Ｗ３区の遺構および土層の放射性炭素年代が７世紀の第２四半期の年代を示したことは，これまで７世紀後半と思われていた金田城の遺構のなかに，それよりも古い時期の遺構が存在することが明らかとなった点で注目される。　［調査担当：古門］（文責：古門）

③ 宇久松原遺跡

所 在 地	北松浦郡宇久町平郷	**調査主体**	宇久町教育委員会
調査原因	個人住宅建設	**調査面積**	250㎡
調査期間	平成８年７月15日～８月９日	**処　　置**	調査後埋め戻し
報 告 書	平成９年３月刊行	**遺跡番号**	50-23

立　地

遺跡は宇久島は，九州西北端の五島列島の最北に位置する。

宇久島は標高258ｍの城ヶ岳を頂点とする低平な溶岩台地の島で，南海岸には半島部と砂丘が交互に展開する。遺跡は島の南東側の標高６～９ｍの南面する砂丘に営まれている。

２号土壙墓出土人骨

調　査

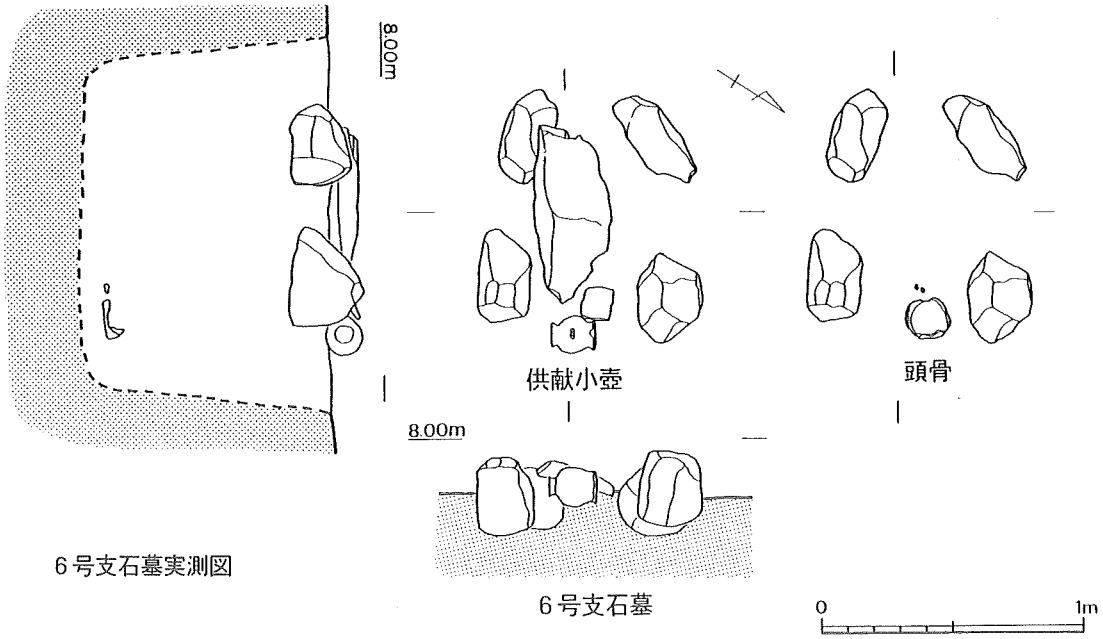
今回の調査では，支石墓６基，甕棺墓１基，土壙墓４基の計11基の埋葬遺構を検出した。支石墓は，４個の支石の上に上石を載せる碁盤形と支石をもたないものの２種類がある。

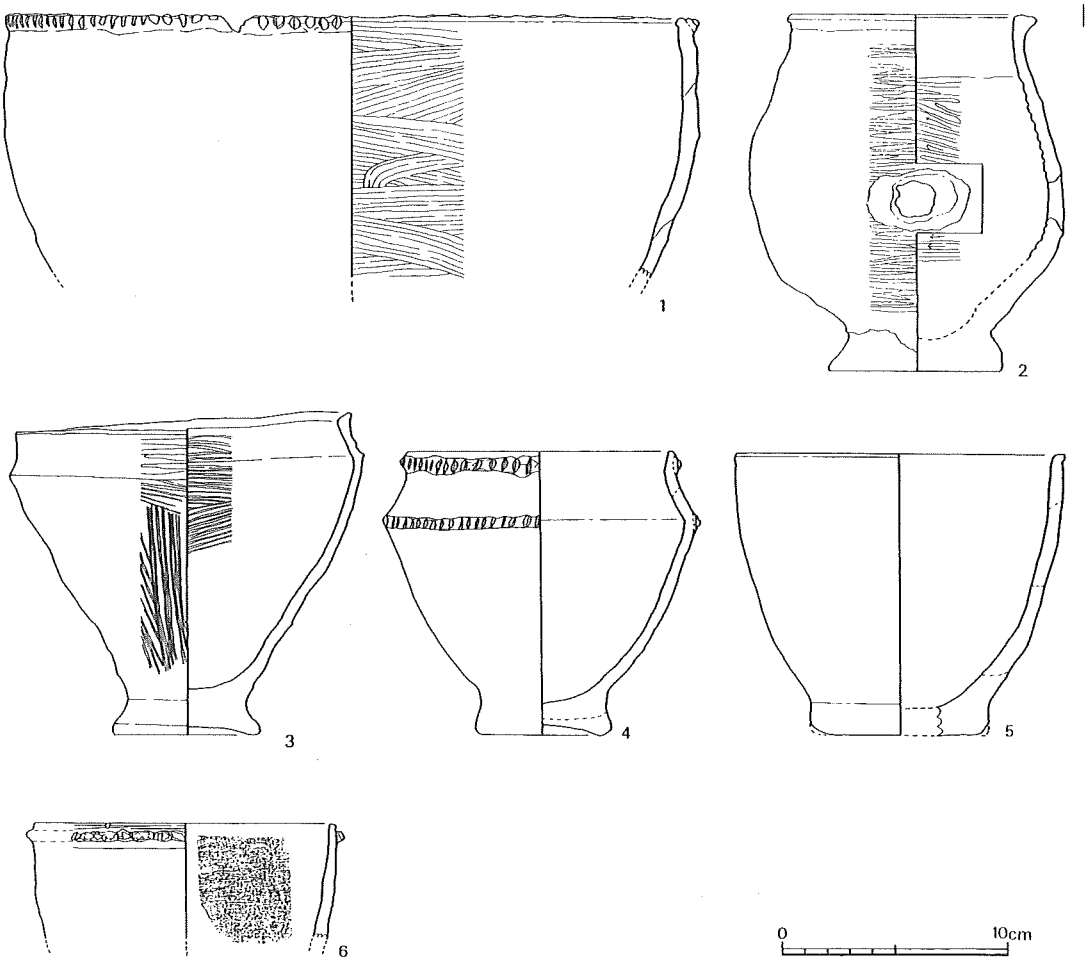
１号支石墓は支石に比べて上石が極端に小さい。下部構造は精巧な作りの丹塗りの大形の壺棺で，夜臼Ⅱａ段階のものと思われ，蓋には大きめの角礫を使用する。２・４・６号支石墓の下部構造は土壙であり，４・６号からは人骨が検出された。４号は壮年女性が屈葬され，支石の間にアワビ貝が供献されていた。６号支石墓には３個体の土器が供献されており，唯一の成年男性が埋葬されていた。

３・５号支石墓は支石をもたない支石墓で，下部構造は土壙である。３号には二条の刻目突帯文をもつ籾圧痕のある小形甕が供献されていた。５号からは屈葬された成人女性人骨が出土した。

１号土壙墓の人骨は熟年女性で、やや横向きに屈葬され，両腕に各２個のオオツタノハの貝輪が装着されていた。２号土壙墓には壮年女性が仰臥屈葬されていた。２体には下顎の切歯および犬歯を抜く縄文的な抜歯がみられ，支石墓との位置関係，埋葬された層位からみて縄文時代晩期後葉に属する。

遺物はいずれも縄文時代晩期後葉の夜臼式土器の段階である。６号支石墓に供献されていた丹塗磨研の壷は，倒卵形を呈しており朝鮮半島の無文土器と深い関係があるものと思われるが，台状の底部や内面の貝殻条痕など縄文的な要素も色濃く併せもっている。朝鮮半島系の土器が在地化したものと思われるが類例はない。そのほか口縁部が屈曲する甕，同じく口縁部が屈曲するもので，口唇部と屈曲部の二条の刻目突帯文をもつ甕，砲弾形で口唇部に一条の刻目突帯文をもつやや浅い甕，一条の刻目突帯文をもつ甕などがある。　　［調査担当：川道・塩塚］（文責：川道）





供献土器実測図

④ 笛吹浦遺跡（ふえふきうら）

所 在 地	南松浦郡若松町宿ノ浦郷813-3　地先外	**調査主体**	長崎県教育委員会
調査原因	一般国道384号交通安全施設等整備工事	**調査面積**	52.5㎡
調査期間	平成８年９月９日～９月21日	**処　　置**	調査後工事
報 告 書	刊行予定なし	**遺跡番号**	65-5

立　地

本遺跡は，長崎県の西部に南西から北東に連なる五島列島の，ほぼ中央部に位置する中通島の西海岸にある。若松瀬戸の東側の笛吹浦に流れ込む笛吹川沿いに広がる平地で，西側は満潮時には海没する潮間帯に及んでいる。ここを通る国道384号の海側への拡張工事に先立ち範囲確認調査を行った。

調　査

当初は２ｍ×２ｍの試掘壙を９箇所予定したが，砂礫の崩落を考え３ｍ×３ｍの試掘壙４箇所を含む７箇所とした。それぞれの試掘壙は，北側から南側に第１試掘壙・第２試掘壙・・・第７試掘壙とした。第１試掘壙は笛吹川の北側で，河口に接した場所である。土層は全体が砂礫層であるが，他の試掘壙に比べ礫が小さくて量も少ない。第２試掘壙から第６試掘壙も基本的に砂礫層であるが，微妙に色や硬さなどに違いがある。第４・第５試掘壙は表面から30cmほどのところから特に硬い砂礫層となっている。第７試掘壙は遺跡の南西側で，一部に地山と思われる明るい黄褐色の部分があり，確認のため掘り下げた。この試掘壙は遺跡南側の山裾にあたる場所で，遺物包含層は全くない。

笛吹川による小さな開析平地があり，この周辺300ｍから400ｍほどの範囲の畑地や当該海岸で，縄文時代の土器片などの遺物が採集されていた。

しかし，その量も少なく，遺跡の規模としてはごく小さなものであったことが窺える。

本遺跡の上流500ｍほどの場所に，「笛吹」遺跡がある。北東側に向いて若干傾斜の緩くなる山麓斜面で，遺物が採集されているが，規模的に大きくなる可能性は少ないように思われる。　［調査担当：藤田］（文責：藤田）

笛吹浦遺跡調査写真

⑤ 石田城跡（いしだじょう）

所 在 地	福江市福江町７番地	**調査主体**	長崎県教育委員会
調査原因	県立五島高等学校校舎建替	**調査面積**	300㎡
調査期間	平成８年７月22日～８月30日	**処　　置**	調査後工事
報 告 書	平成９年刊行	**遺跡番号**	6-47

立　地

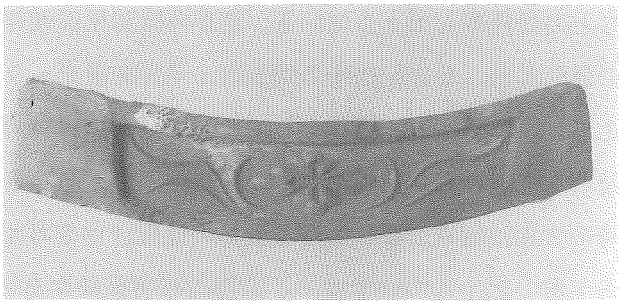
石田城跡は、福江市東部の市街地の中心部に所在する。福江川の南東側にあたり、溶岩台地の北端より北に約600ｍ、福江港より南西に300ｍの位置にあり、周囲は小規模な平野となっている。遺跡はもともとは東南北の三方向を海に囲まれ、中心部にわずかなに高まりを持った岬に立地していたが、現在は周辺は埋め立てられ住宅や商店・発電所など建てられている。本遺跡は幕末期に築城された五島氏の居城である。なお，同敷地内にある五島氏庭園は国指定名勝である。

調　査

調査は新校舎が建設される本丸部分を対象に行い，校舎・道路等がない場所にトレンチを設定することとし，着手順にトレンチ番号を付けた。中庭部分に９箇所，新館・衛看棟裏側部分に７箇所のトレンチを設定した。

遺構としては礎石列と排水溝跡が確認された。礎石列は衛看棟裏側部分で約10ｍにわたって直径40～50cmの円形の礫の並びが２列、新館棟裏側部分で約８ｍにわたって直径50～60cmの円形の礫の列が検出された。柱痕の残る礫もあった。排水溝跡は砂岩製で幅約50cmであった。

出土遺物については、近世陶磁器と瓦が大部分を占めた。陶磁器は出土量も少なく、肥前産の日用雑器が多かった。製作年代は17世紀後半～18世紀前半のものが多く、築城の1863（文久３）年とはかなりの開きがみられたのは意外な感じであった。瓦は近世初頭のものと比べて大型であるが、五島家家紋入りの瓦などを除きほとんどが焼成は悪く笵も弱い。



五島家紋所入軒平瓦

まとめ

今回の調査の目的の一つに絵図面等の文献資料と考古学資料の整合性の確認ということがあった。本丸部分については建築物が何度も建て替えられていたため、現校舎部分は完全に破壊されており、その他の部分も以前の校舎の基礎や廃材、集水施設などのため損壊が著しかった。そのため、礎石と思われる石列が確認されたが前後の関係がわからず絵図面のどこにあたるのかは断定できなかった。しかし、出土遺物から五島藩の状況等を伺うことができたのは成果といえよう。

［調査担当：藤田・甲斐田］（文責：甲斐田）

⑥ 大浜（おおはま）遺跡

所 在 地	福江市大浜	**調査主体**	長崎県教育委員会
調査原因	道路拡幅	**調査面積**	650㎡
調査期間	平成８年11月７日～12月20日	**処　　置**	工事着工
報 告 書	平成10年３月刊行予定	**遺跡番号**	6-36

立　地

遺跡は福江島の南，富江湾の北側に位置する。北東側に鬼岳315ｍを擁し，鬼岳を起源とする溶岩台地の末端に位置する。調査地点は砂丘が形成されており，1963年には同志社大学による調査で弥生時代の墓坑が確認されると共に，牛の歯が出土したことで知られてる。

配石墓出土状況

調　査

調査地点は，砂丘形成時の窪地の部分にあたり，この窪地に水が供給されて沼を形成していたものと推定された。沼からは弥生～中世にいたる遺物や獣骨類が多量に出土した。この砂丘形成以前には縄文後・晩期の遺物包含層があり，土層の状況から縄文晩期以降の寒冷期に砂の供給があり，砂丘が形成されたと判断した。縄文時代の遺物では，阿高式系土器～三万田式土器に到る土器が出土しており，特に鐘崎式～北久根山式土器に主体がある。逆Ｔ字形釣針・アワビおこし状骨製品・ヤスなどの骨角器も出土している。沼からは弥生前期Ⅱ式を最古とし，弥生中期・後期の土器，４世紀代の鼓形器台，６世紀後半の須恵器，７世紀後半～９世紀代の須恵器，11・12世紀代の舶載陶磁器が出土した。特筆される遺物として，鼓形器台、緑釉陶器・墨書土器の出土で，鼓形器台については，本県でも壱岐にしか出土例がなく，山陰系の土器が日本の最西端である五島列島で出土したことは，当時の大和政権成立期における五島の位置付けを考えるうえでも重要な資料である。また緑釉陶器・墨書土器の出土については，この周辺に官衙跡があったことを示唆する。『三代実録』876年値嘉嶋を肥前国から分離独立させ、上近・下近の二郡を新たに建郡した記述があり、このこととの関連性が指摘されるところである。獣骨も沼内から多く出土したが，馬・牛の骨が多いことから，古代牧との関連からも興味深いところであるが，これについては年代測定の結果を待ちたい。

まとめ

調査の結果，福江島で本格的な古代の資料を得ることができた。このことは，いままで古墳時代の遺跡はないとされていたことと相反することで，今後も古代の大規模な遺跡が存在する可能性を示唆したといえよう。

［調査担当：副島・福田・塩塚・東］（文責：福田）

⑦ 家の上遺跡

所 在 地	南松浦郡玉之浦町中須郷荒髭	**調査主体**	玉之浦町教育委員会
調査原因	圃場整備	**調査面積**	48㎡
調査期間	平成８年４月15日～４月20日	**処　　置**	調査後埋め戻し
報 告 書	刊行予定なし	**遺跡番号**	61-9

立　地

玉之浦町は入江の入り組んだリアス式海岸が展開し，半島状を呈するが，遺跡はその基部にある。地質は溶結凝灰岩であり，遺跡の南側には中須川が西流して玉之浦湾に注いでいる。標高３～８ｍほどの南面する緩傾斜の丘陵末端に位置する。

調査風景

調　査

この地域では後継者育成のための圃場整備事業が長崎県によって進められている。今回の家の上遺跡の範囲確認調査は，前年度の分布調査をうけて実施したものである。国道384号線を挟んで東西に試掘坑を設定したが，東側では表土の直下が地山であり包含層は存在しなかった。西側に設定した第３試掘坑を中心に縄文時代後期の包含層を検出したが，桑畑の造成時に地形が改変されており，その広がりは第３試掘坑の周辺に限定されるものと思われる。

遺　構

今回の調査では検出されなかった。

遺　物

包含層からではなかったが，旧石器時代のナイフ形石器・三稜尖頭器が各１点出土している。旧石器時代の包含層自体は調査区では明らかにならなかった。桑畑造成時に削平されたものであろう。

縄文時代の遺物としては，後期と思われる条痕文土器が20数点出土しているが摩滅しており保存状態はあまりよくない。口縁部破片はなく型式も不明である。剥片石器としては，石鏃６点，石匙１点，サイドブレイド１点，両面加工拇指状石器１点がある。また打製石斧や石錘などの礫石器も数点出土している。

弥生時代の土器片も出土したが細片で器形を知る手がかりは得られなかった。また須恵器の口縁部破片が１点出土している。

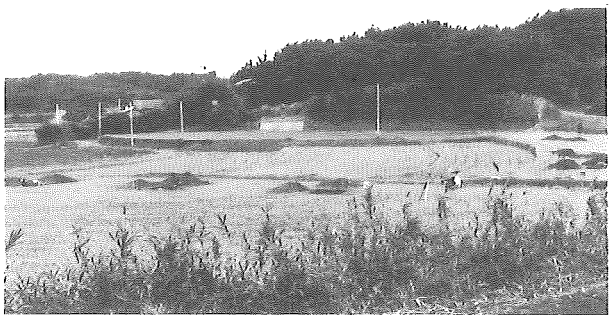
［調査担当：川道］（文責：川道）

⑧ 石橋遺跡（いしばし）

所 在 地	北松浦郡大島村的山戸田堀切727～730	**調査主体**	大島村教育委員会
調査原因	基盤整備事業	**調査面積**	28㎡
調査期間	平成８年12月16日～12月20日	**処　　置**	調査後工事
報 告 書	刊行予定なし	**遺跡番号**	47-36

立　地

本遺跡は大島村の南西部に突き出た半島のくびれ部分に位置する。周囲は南北を小さな丘陵に挟まれた、西下がりの谷筋となっている。標高は35～40mを測る。当地は、現在段々状の畑地となっているが、戦前は瓦の原料の土を採取しており、掘削した上に客土を盛っていると思われる。付近では、黒曜石剥片や打製石斧などが表面採集されている。



遺跡近景

調　査

調査区は基盤整備事業が実施される５枚の畑のうち削平される２枚の畑とし、７カ所の試掘坑（２×２ｍ）を設定し、設定順に番号を付した。

第１～３および７試掘坑を東側の最も高い畑に設定した。第１及び第７試掘坑より黒曜石剥片数点が出土した。第４～６試掘坑を北側の２番目に高い畑に設定した。第４試掘坑より黒曜石剥片１点が出土した。

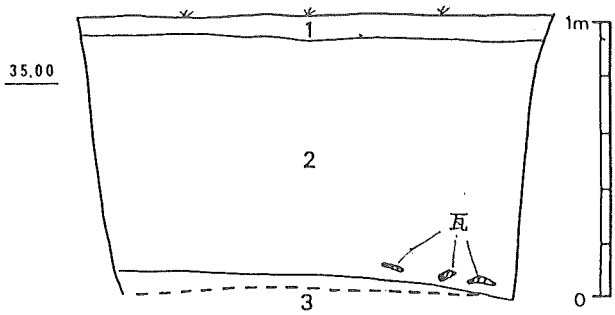
土層は基本的に３層に分けられた。

第１層　約10cmで耕作土である。

第２層　客土で褐色土の中に瓦や礫などが含まれている。第１試掘坑では約30cmであるが、第３試掘坑では１ｍ以上ある。黒曜石剥片もこの層から出土した。

第３層　灰色粘質土で瓦の原料として使われていた。

第３試掘坑（南壁）



土層断面図

まとめ

今回の発掘調査の結果、事業部分が遺構・遺物を含む地域でないことが判明した。出土した遺物は客土からのものであり、包含層は残存していない。地形からみて遺跡の本体はさらに上部にあると思われる。

［調査担当：甲斐田・米村・岩井］（文責：甲斐田）

⑨ 千里ヶ浜（せんりがはま）遺跡

所 在 地	平戸市川内町千里ヶ浜	**調査主体**	長崎県教育委員会
調査原因	海岸環境保全事業	**調査面積**	130㎡
調査期間	平成８年11月６日～11月29日	**処　　置**	本調査
報 告 書	未定	**遺跡番号**	7-123

立　地

本遺跡は、平戸市北西部、川内港の東に位置し、砂浜および潮間帯に立地する。千里ヶ浜はその名が示すとおり、直線距離１kmほどの砂浜である。曽畑式土器を出土する海底遺跡として古くから知られており、平成４年には採集資料の紹介があった。千里ヶ浜は単純な砂浜海岸ではなく、所々に礫の集中する部分がある。

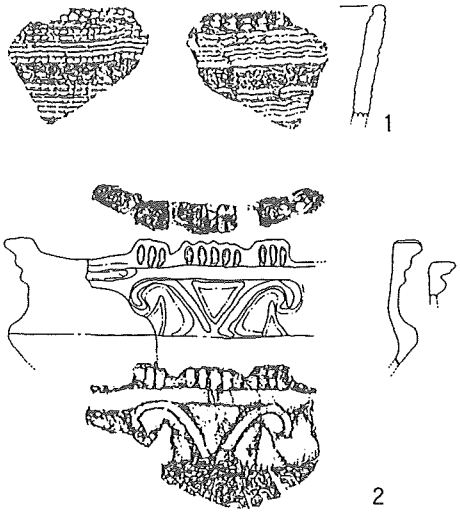
遺跡遠景

調　査

工事予定区全体を調査対象とし、基本的に100m間隔で試掘坑を設定し、設定順に第１～21試掘坑とした。遺跡の立地上、調査区の大部分は潮間帯であり、調査は潮の干満に大きく影響され、実質の調査時間は１日４時間程度であった。

土層は基本的に３層に分けられた。１層は砂礫層で径10cm前後の礫が混じる。２層は黄色砂層で純粋な砂の層である。３層は黄褐色砂層でやや泥が混じっている。

遺物は調査区の東端および西端の砂礫堆部分に集中して出土した。土器は縄文時代前期の曽畑式土器を主体に、熊本県の尾田遺跡出土の土器を指標とする尾田式土器（１）や縄文時代中期の阿高式系土器（２）が出土した。石器は磨製石斧および大型の石錘が出土した。



出土土器実測図［S＝1／3］

まとめ

この調査は遺跡の立地上の理由で、１日の調査時間も限られ、また絶えず湧き出る海水の影響で試掘坑の四壁は徐々に崩れていく状況であったが、調査により遺物の集中する地点が３箇所存在することが明らかになった。

［調査担当：川道・甲斐田］（文責：甲斐田）

⑩ 平野（ひらの）遺跡

所 在 地	北松浦郡福島町平野	**調査主体**	長崎県教育委員会
調査原因	ＬＰＧ基地建設	**調査面積**	176㎡
調査期間	平成８年11月27日～12月18日	**処　　置**	調査後埋め戻し
報 告 書	刊行予定なし	**遺跡番号**	52-25

立　地

福島町は玄海国定公園区域内に位置し，伊万里湾に浮かぶ島である。昭和46年に対岸の佐賀県伊万里市とを結ぶ福島大橋が開通し，陸上交通が可能となった。本遺跡は昭和59年の県の分布調査により遺跡と確認されている。

遺跡遠景

調　査

本遺跡は島の南西端の丘陵上に位置し，標高は10～18m程度である。調査は対象地内に２ｍ×２ｍの試掘坑を44箇所設定した。これらのうち，第29・31・37試掘坑の包含層から遺物が出土し北側の遺跡範囲を確定した。また，第６・７・39・42・43試掘坑の包含層から遺物が確認され，南側の遺跡範囲を確定した。そして，土層については五層に分かれていることがわかった。第二層の暗黄褐色弱粘質土から縄文土器が，また三層の黄色粘質土と四層の暗黄褐色土から二次加工のある旧石器時代と比定される石器・剥片等が出土している。遺物の包含層は40～80cmである。また，旧石器時代の台形石器が表採されている。遺構については，第42試掘坑で黒曜石片を伴う土坑が確認された。

まとめ

今回の範囲確認調査によって確認された遺跡の範囲は北側・南側を合わせて約5,100㎡である。

長崎県北部は旧石器と縄文時代の遺跡が多いことで知られているが，本遺跡もその一つである。福島町における本格的遺跡調査はこれが初めてであり，今後の調査によって福島町の歴史の一部が明らかになることが期待される。

［調査：村川・小松］（文責：小松）

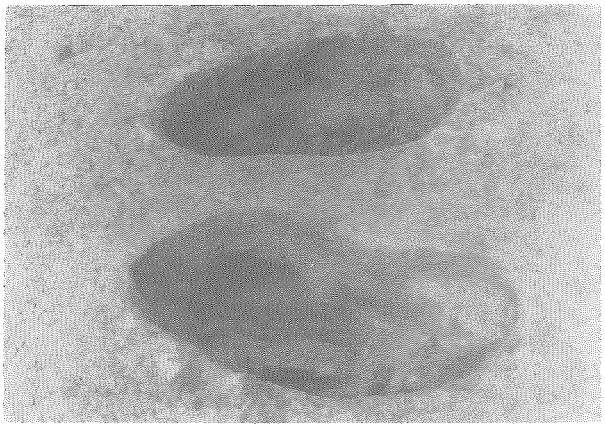
遺物出土状況

⑪ 広久保（ひろくぼ）遺跡

所 在 地	長崎県北松浦郡江迎町栗越免	**調査主体**	長崎県教育委員会
調査原因	農地再編事業	**調査面積**	80㎡
調査期間	平成８年12月９日～12月20日	**処　　置**	本調査
報 告 書	平成９年度報告書刊行予定	**遺跡番号**	54-9

立　地

広久保遺跡は，江迎町の北東部に位置し，松浦市との境界までは約500ｍほどの距離にある。標高180ｍの等高線に沿って東西200ｍ，南北150ｍほどの丘陵平坦部が形成されており，その一帯が広久保遺跡として周知されている。



連穴土壙検出状況（本調査時）

江迎町は国営農地再編事業として８ヶ所の地区で圃場整備を事業化した。これを受けて県文化課は平成６年７月に，江迎町内で分布調査を実施し，その結果，箙尾（えびらお）・猪調（いのつき）・小川内（こがわち）の各団地については着工前に範囲確認調査が必要との回答を町におこない，今回の調査となった。

調　査

調査対象地域は丘陵頂部を中心とする120㎡であったため，20ヶ所の試掘坑を設定し，実施した。

調査概要

遺跡の基本層位は耕作土（第１層）の直下に縄文早期末（手向山式段階）の遺物包含層（第２層・黄褐色土層）が残存している。第２層の下には黄褐色粘質土層（第３層）が存在する。遺跡周辺からは旧石器が表採されている。第３層の下には赤褐色粘質土（第４層）が存在する。基盤層である玄武岩の風化土層で，無遺物層である。

第１～第５試掘坑は道路の北側に設定した。第１～第４試掘坑までの耕作土下は客土であった。第６・第７試掘坑も基本層位どおりの堆積である。第９試掘坑は，遺物包含層である第２層を確認した。土器は縄文時代早期末の手向山式土器の範疇に入るものと考えられる。第10～第13及び第20試掘坑は場所によって耕作土下の状況は異なるが，概ね基本土層に従った堆積をなす。遺物の包含はみられなかった。

まとめ

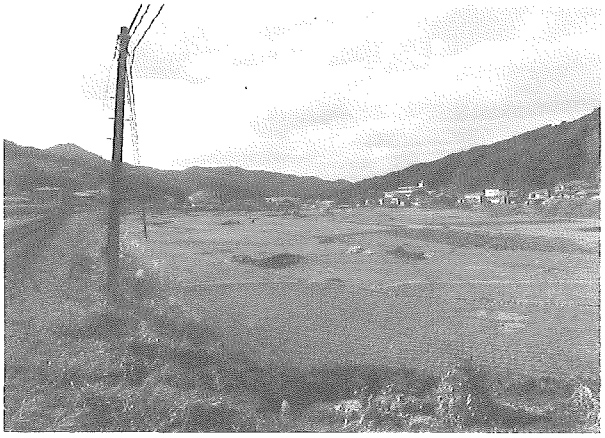
今回おこなった範囲確認調査の結果，遺物包含層である第２層は工事対象地のほぼ中央に位置する広久保正樹氏所有の畑を中心に，430㎡の範囲に広がることが判明した。したがってこの一帯は本調査が必要と判断された。　　［調査担当：藤田・古門・東］（文責：古門）

⑫ 猪調遺跡（いのつき）

所 在 地	北松浦郡江迎町猪調免	**調査主体**	長崎県教育委員会
調査原因	国営農地再編整備事業	**調査面積**	68㎡
調査期間	平成９年１月20日～２月５日	**処　　置**	調査後工事着工
報 告 書	刊行予定なし	**遺跡番号**	なし

立地・調査

猪調遺跡は江迎川の影響で形成された河岸段丘上に位置する。現在，遺跡は広範囲にわたり水田地帯となっている。調査原因は圃場整備によるもので，２ｍ×２ｍの試掘坑を17箇所設定・調査を行った。



調査区遠景

調査の結果，遺構または遺物包含層は確認されなかった。また遺物は黒曜石剥片・青磁碗の破片などが数点出土しただけである。

遺物の出土点数が少ない理由として以下２つのことが考えられる。

①江迎川は洪水などその流れを度々変えており，遺物の流出入が繰り返し行われたこと。

②調査範囲は基盤整備が数回行われており，遺物包含層そのものが破壊された可能性が高い。

したがって，調査対象となった箇所は遺跡の可能性が低いと思われる。

［調査担当：小松・東］（文責：東）

⑬ 小川内遺跡（こがわち）

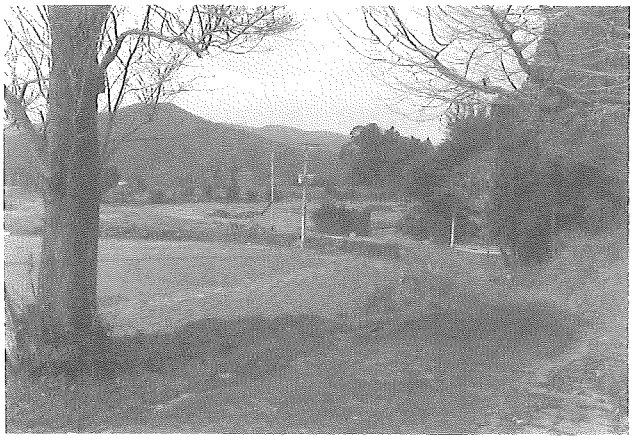
所 在 地	北松浦郡江迎町小川内免	**調査主体**	長崎県教育委員会
調査原因	国営農地再編整備事業	**調査面積**	20㎡
調査期間	平成９年２月10日～２月14日	**処　　置**	調査後工事着工
報 告 書	刊行予定なし	**遺跡番号**	54-10

立地・調査

小川内遺跡はＶ字谷を呈した地形の山間部に位置する。遺跡周辺は斜面を切り開いて棚田が作られている。圃場整備が調査原因で２ｍ×２ｍの試掘坑を５箇所設定・調査を行った。調査前には中世山

城の堀跡・または河川跡ではないかといわれていたが，調査では遺構・遺物包含層などは確認されなかった。層位は上から順に耕作土，茶褐色粘質土層，黄褐色地山層となっている。茶褐色粘質土層は地山層上に堆積した自然堆積層である。したがって，調査範囲における遺跡存在の可能性は低い。

［調査担当：東］（文責：東）



調査区遠景

⑭ 草ノ尾（そうのお）遺跡

所 在 地	北松浦郡吉井町草ノ尾免	**調査主体**	吉井町教育委員会
調査原因	国営農地再編整備事業	**調査面積**	44㎡
調査期間	平成８年11月11日～11月19日	**処　　置**	調査後工事着工
報 告 書	刊行予定なし	**遺跡番号**	58-4

立地・調査

草ノ尾遺跡は標高約240ｍの山間部に位置し，遺跡周辺は水田・畑が広がっている。圃場整備が調査原因であり，２ｍ×２ｍの試掘坑を11箇所設定・調査を行った。

調査の結果，遺物・遺物包含層は確認されなかった。遺物は黒曜石剥片などが数点確認されたにとどまる。また，遺跡周辺の畑で表面採集を行ったが，遺物は確認されなかった。出土遺物は流れ込みと思われ，遺跡の可能性は低い。

調査風景

遺跡付近には川があり，地元住民の話では度々洪水・河道の変化を繰り返していたという。遺跡が確認されない理由の一つとしてあげることができる。

［調査担当：東］（文責：東）

⑮ 狸山支石墓群周辺（たぬきやましせきぼぐん）

所 在 地	北松浦郡佐々町松瀬免	**調査主体**	長崎県教育委員会
調査原因	主要遺跡内容確認調査	**調査面積**	100㎡
調査期間	平成８年８月26日～８月30日	**処　　置**	調査後埋め戻し
報 告 書	未刊行	**遺跡番号**	59-15

立　地

狸山支石墓群は，標高40mの小高い丘陵上に立地しているが，今次の調査地点は，狸山支石墓群から北東に200m程の位置である。後方には標高350mの鷲尾岳があり，遺跡が乗る丘陵は，その裾野に位置している。調査地の現状は檜林となっている。

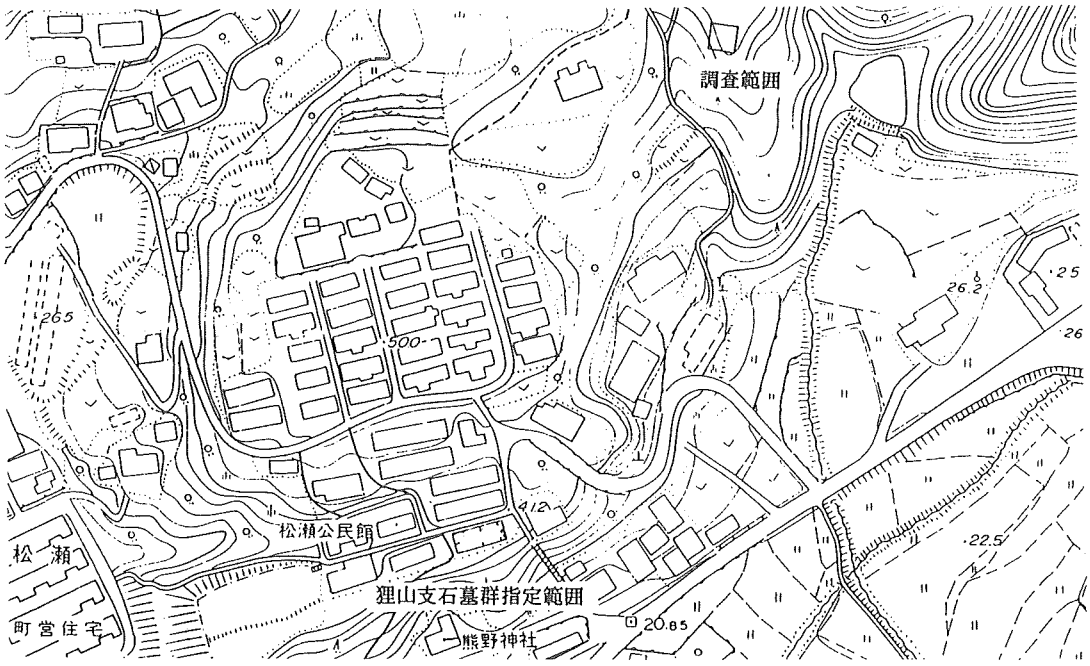
調　査

支石墓の上石状の自然石が群在する場所を選び10m×10mの調査区を設定した。厚さ15cm程の表土を剥がし，石棺等の遺構の有無と支石墓の上石状の自然石の下部の確認を行った。

出土遺物及び遺構の検出もなく，上石状の自然石の下にあったものは，自然石のみであった。その他の人為的な痕跡は認められなかった。調査状況の写真撮影及び調査区とその周辺の平板測量，そして，支石墓の上石状の自然石の実測を終えて調査を終了した。

まとめ

今次の調査地の調査結果では，支石墓関連の出土遺物及び遺構の発見はなかった。可能性としては、今次の調査地，及びその周辺に支石墓の上石に丁度いいような自然石が散見されるので，この場所から狸山支石墓群へ上石として運んだことも考えられる。［調査担当：村川・小松］（文責・村川）



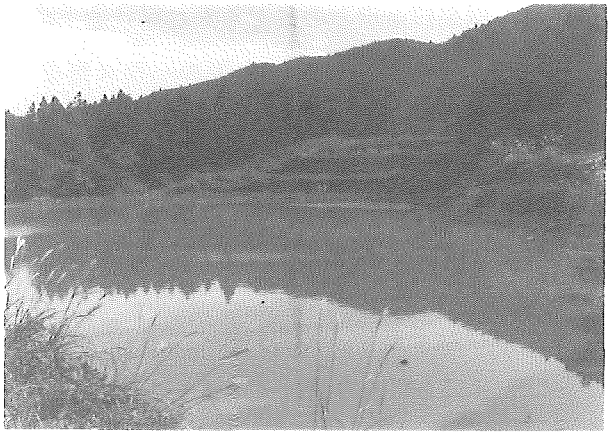
狸山支石墓群内容確認調査範囲

⑯ 石坂（いしざか）遺跡

所 在 地	北松浦郡世知原町上野免字石坂	**調査主体**	世知原町教育委員会
調査原因	ふるさと水と土保全モデル事業	**調査面積**	20㎡
調査期間	平成８年10月28日～11月６日	**処　　置**	調査後埋め戻し
報 告 書	刊行予定なし	**遺跡番号**	59-12

立　地

世知原町は，長崎県の北部に位置し，総面積32k㎡。町東端にそびえる国見山を水源とする佐々川が町の中央を東西に縦断している。その中央が平坦な盆地となっている。本遺跡は，町の南西部の石坂池周辺に位置している。世知原町内では本遺跡のように牟田池遺跡，黒石池遺跡などため池周辺部に遺跡が存在する例がみられる。



遺跡遠景

本遺跡では，昭和58年の分布調査で石鏃・黒曜石片が確認されている。今回の調査はこの地区でふるさと水と土保全モデル事業が計画され，そのため工事に先だって実施されたものである。

調　査

調査は，２ｍ×２ｍの試掘坑を５箇所を設定した。周辺の茶畑として利用されている場所では黒曜石が表面採取できることから，遺物・遺構等の確認が期待されたが，今回の調査では確認できなかった。

［調査：塩塚］（文責：小松）

⑯ 大野原遺跡（おおのばる）

所 在 地	南高来郡有明町大三東戊1375他	調査主体	有明町教育委員会
調査原因	文化会館建設	調査面積	280㎡
調査期間	平成８年７月29日～８月９日	処　　置	調査後文化会館建設
報 告 書	未刊行	遺跡番号	31-11

立　地

遺跡は，標高17ｍほどのなだらかな扇状地上に立地する。現状はその上に2.5～３ｍの客土が埋め立てられている。周囲はスイカ等のハウス野菜等の畑地として利用されている。一方，町民センター，教育委員会，社会教育施設（婦人の家・青年の家）等が存在するので次第に開発が進行している場所でもある。

経　緯

遺跡は，昭和42年に発見され，昭和44年には国見高校，昭和59年～61年には町教育委員会による発掘調査が行われており，昭和44年と59年の調査では，弥生時代のカメ棺墓・土壙墓が検出されている。平成元年にも町教育委員会によって試掘調査が行われている。

調　査

試掘壙を10箇所設定し、範囲確認調査を実施した。

基本的な土層は以下のようになる。

１層；黒褐色土（耕作土）

２層；黒色土（奈良時代の遺物を包含している）。

３層；茶褐色土（縄文時代後期の土器・石器を包蔵している）。

４層；暗茶褐色粘質土

全ての調査壙において，２・３層から奈良時代，縄文時代後期の遺物が出土した。また，４層上面まで掘り下げると柱穴等の遺構も検出された。

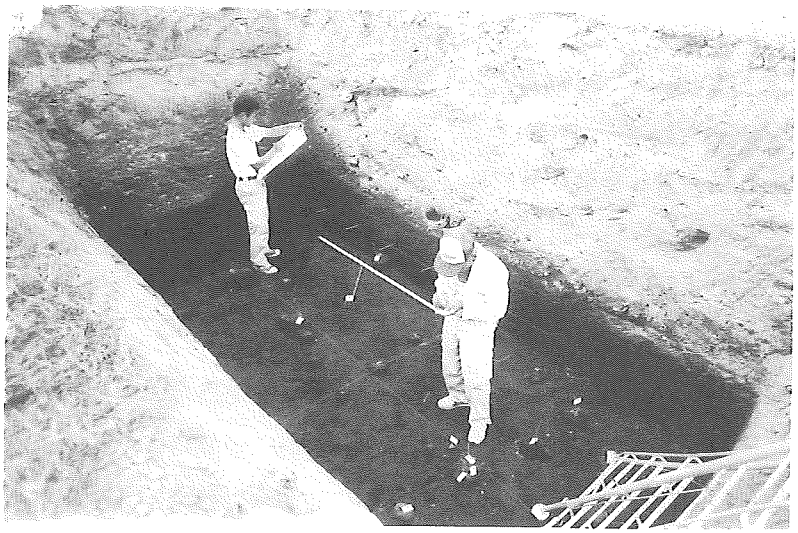
まとめ

調査では，縄文時代後期と奈良時代を主体とする生活の跡を確認することが出来た。平成元年度の調査成果と同じように，３層の縄文時代後期の遺物包含層は三万田式土器の単純層である。また、部分的に柱穴，不明土壙等も検出しているので，該期の住居跡なども発見される可能性がある。

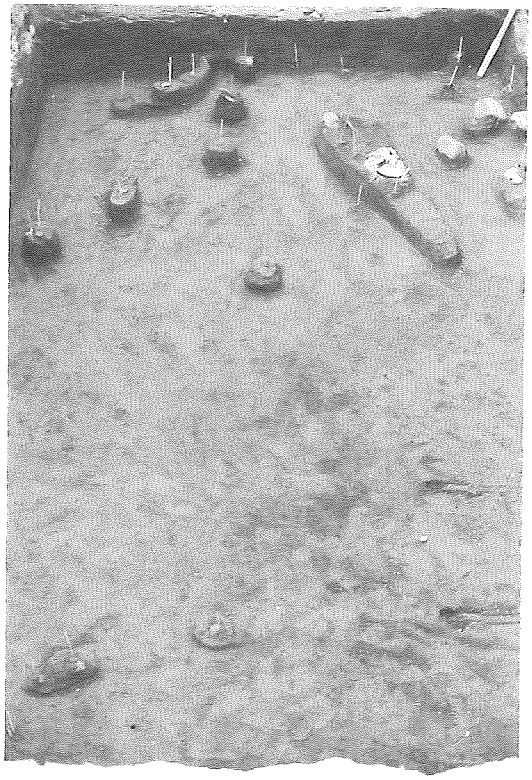
今次の調査地点に隣接する平成元年度の調査地点では，奈良時代の遺構も確認されているのでこの時期の遺構にも注意が必要だと思われる。

したがって，当該の調査対象地は，全面にわたって埋蔵文化財が包蔵されていることが判明したことになる。隣接する平成元年度の調査対象区と合わせ約5,000㎡が調査対象範囲となる。

［調査担当：村川・東］（文責・村川）



調査状況



右上の白っぽい土器が三万田式の注口土器

遺構・遺物検出状況

⑱ 稗田原遺跡（ひえだばる）

所 在 地	島原市稗田町	**調査主体**	長崎県教育委員会
調査原因	県道拡幅	**調査面積**	1,318㎡
調査期間	平成８年７月３日～７月12日（試）		
	平成８年９月９日～11月１日（本）	**処　　置**	調査後工事
報 告 書	平成９年３月，平成10年３月刊行	**遺跡番号**	3-32

立　地

遺跡が所在する稗田町は，もとは島原市三会木崎名の一部で，島原半島の東部，雲仙山系北東麓の火山性扇状台地に位置し，東は有明海に面している。この三会原には，高燥域に所在する礫石原遺跡を始めとして，縄文時代晩期の遺跡が多い。海岸部に向かって標高が下がるにしたがい，上油堀，下油堀，長貫Ａ，長貫Ｂ，南楠沢，大塚後，津吹，三会中学校，寺中Ａ，寺中Ｂ，下宮，平成３年に調査された畑中遺跡，そして，本報の稗田原遺跡等がある。この三会原全体に縄文時代晩期の遺跡が，ほぼまんべんなく分布している。平成８年度の調査でわかったことであるが，稗田原遺跡では，この縄文時代晩期の包含層の下で縄文時代後期の時期の火砕流の堆積が確認された。この火砕流は，隣の畑中遺跡でも確認されており，恐らくは三会原全体に広がっていたと思われる。火砕流が堆積した後、表面が土壌化するか、火山灰の堆積があるかして，栽培，ないしは耕作するに足る土壌が醸成され，遺跡が形成されたものであろう。

調　査

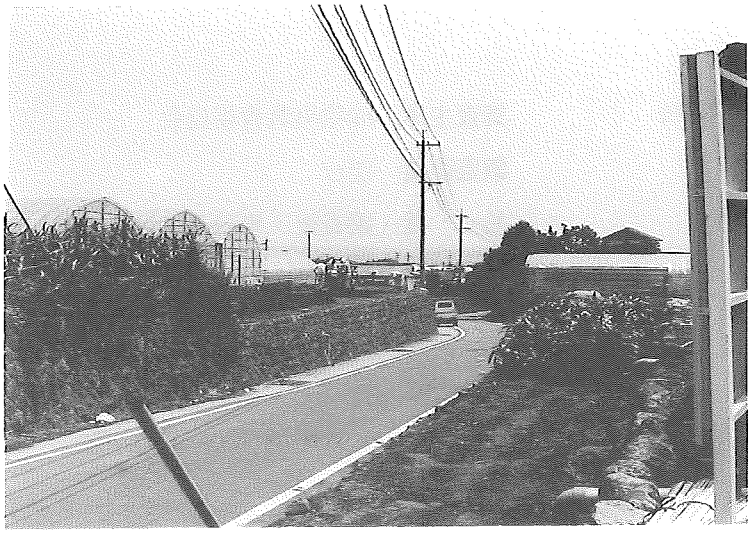
対象地に12箇所の試掘壙を設定し，その内半分の６箇所から遺構・遺物が確認された。その確定部分について本調査に入り，調査の結果，柱穴，溝や，集石遺構，ハンマーストーン等が出土したことから石器製作跡とも考えられる遺構が確認された。出土する土器は黒川式土器を主体とし，組織痕土器が伴出する。石器は，石鏃・穂摘み具ではないかとみられるスクレーパー，打製石斧，磨製石斧黒曜石製コアー等である。

今回の調査では，自然科学的な分析のアプローチを試みた。宮崎大学農学部の藤原宏志先生に土器の胎土内と土壌の花粉分析を，長崎大学教育学部の長岡信治先生に遺跡のテフラ層序で火砕流の年代測定等の分析をお願いした。その結果，縄文時代晩期の包含層の下の火砕流は「六ツ木火砕流」でそのＣ14年代は3620±60ｙｒＢＰ（補正済）という結果が出ている。また，藤原先生の分析ではこの「六ツ木火砕流」の下の土層からイネの花粉が検出されている。

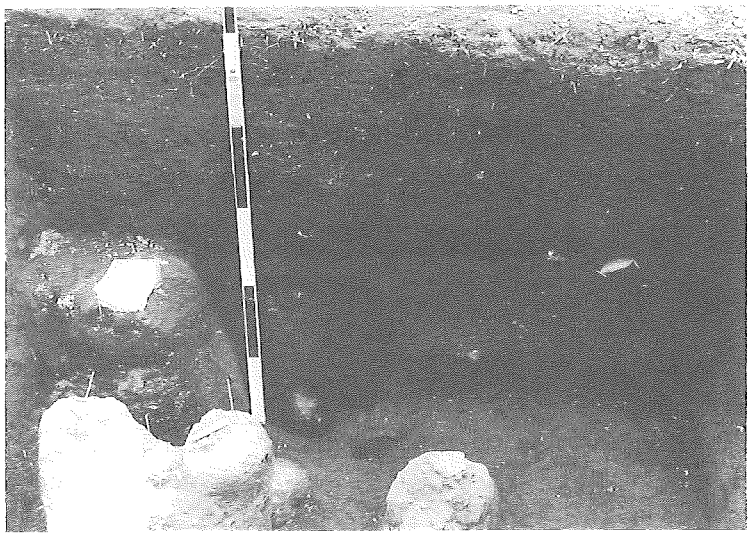
まとめ

今回の自然科学的な分析結果によると，縄文時代後期の中頃からイネの栽培を行っていた可能性が出てきた。今までは，「六ツ木火砕流」の上の縄文時代晩期の事しか考えてなかったが，今後はイネの栽培の可能性を後期まで遡って考える必要性が出てきたといえる。

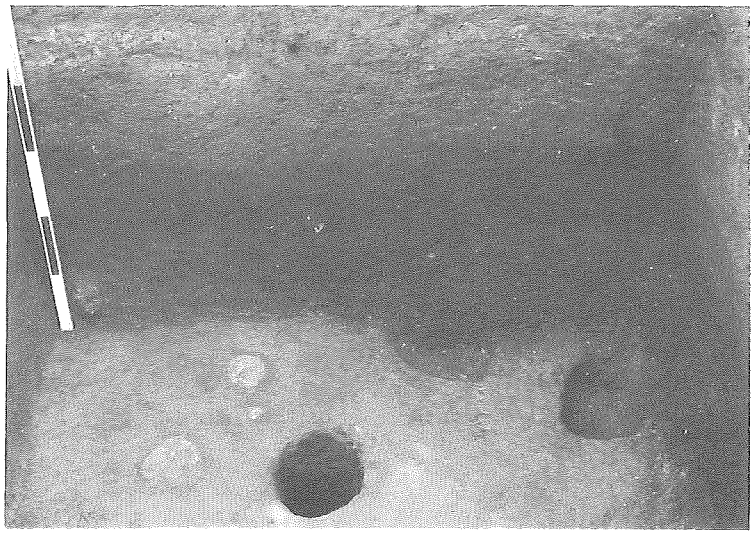
［調査担当：村川・荒木］（文責・村川）



調査前の状況



遺構（柱穴）
検出状況



同　　上

⑲ 宿城跡（鍵峰城跡）

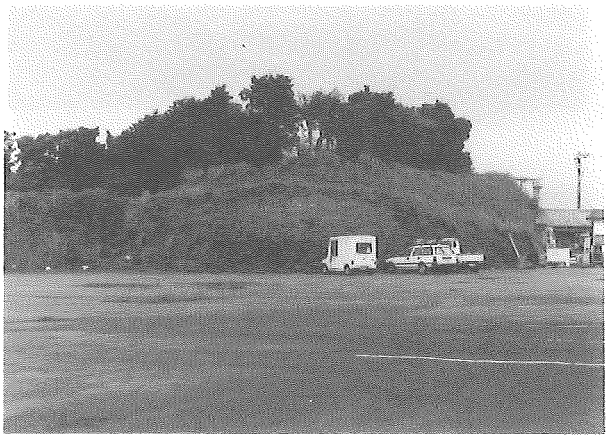
所 在 地	南高来郡瑞穂町夏峰名字下夏峰	**調査主体**	瑞穂町教育委員会
調査原因	個人による圃場整備事業	**調査面積**	28㎡
調査期間	平成９年３月24日～３月28日	**処　　置**	調査後工事着工
報 告 書	刊行予定なし	**遺跡番号**	33-12

立　地

遺跡地図では鍵峰城跡となっているが，地元住民は宿城と呼んでいる。

宿城跡は下夏峰の丘陵部分に位置する。調査対象地はかつて夏峰地区の丘陵部分とつながっていた。

現在は国道251号線によって切りとられ，小高い丘が残された状態である。遺跡周辺には陣の内遺跡があり，宿城跡との関連性が指摘される。



調査区遠景

調　査

調査の結果は遺物・遺物包含層は確認されなかった。遺物も耕作土から黒曜石片などが数点出土しただけである。層位は耕作土・茶褐色粘質土層・黄褐色地山層の順になり，遺物包含層はなかった。地元住民によると，遺物は国道251号線建設時に多量に出土したという。

遺跡周辺の地形からみると，宿城跡は現在の251号線を含め，南側に位置していた可能性が高い。

［調査担当：東］（文責：東）

⑳ 陣の内遺跡

所 在 地	南高来郡瑞穂町岡名字夏峰	**調査主体**	瑞穂町教育委員会
調査原因	圃場整備に伴う範囲確認調査	**調査面積**	116㎡
調査期間	平成８年７月８日～７月23日	**処　　置**	本調査
報 告 書	平成10年３月31日刊行予定	**遺跡番号**	33-10

立　地

遺跡は，岡・夏峰地区の挟まれた船津川の浸食によって形成された河岸段丘上に位置する。この段丘は，現在水田地帯となっているが，近年の圃場整備等により，景観も変貌しつつある。

陣の内遺跡遠景

圃場整備に伴う平成７年度の調査では，中世を中心とする遺構・遺物が出土しており，平成８年度圃場整備予定地も遺物が発見されることが予想され，今回の範囲確認調査がおこなわれる運びとなった。

調　査

調査は２×２ｍの試掘坑を29箇所順次設定した。調査の結果，北側のグリッドから，中世の柱穴群を確認したが，包含層は後生の水田耕作の際に削平されており，遺物はきわめて少なかった。遺跡中央では弥生時代の高坏脚部・甕棺片をはじめ，弥生土器・土師器を中心に多量に遺物が出土した。また地表面下90cmの所で炭化材２本と土師器・焼石が出土するなど，火災住居が存在する可能性が指摘される。さらに北側では弥生後期の甕棺が出土するなど確認調査対象地のほとんどから遺物が出土し，弥生～古代にかけての大遺跡であったと考えられる。平成７年度の調査では，中世が主体であり，その拡がりがどこまであるのかということが一つの課題であったが，今回の調査によって，かなりの拡がりを持つことが予想され，さらに住居址の確認などが期待される。また，火災住居と考えられる遺構がグリッドの一部に掛かった状況であったことから，その確認についても本調査で期待されるところである。

まとめ

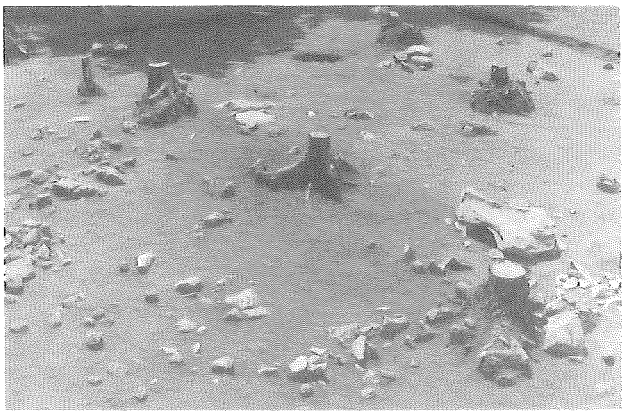
今回の範囲確認調査により，圃場整備対象地のほとんどが遺跡であることが確認された。このなかで盛土保存で回避できるものについては事業者との協議を進めていくこととするが，本調査を実施しなければならない部分がかなり存在するものと思われる。遺跡の内容としては，中世にこの地を治めていた伊福氏との関連を研究するうえでの資料，及び古代の島原半島を考えるうえで重要な遺物が出土する可能性があり，本調査に期待される。　［調査担当：福田・東］（文責：福田）

㉑ 原山支石墓群（はらやましせきぼぐん）

所 在 地	長崎県南高来郡北有馬町坂上下名字原ノ尻川	**調査主体**	長崎県教育委員会
調査原因	主要遺跡内容確認調査	**調査面積**	約1,000㎡
調査期間	平成８年７月８日～８月９日 平成８年８月26日～８月30日	**処　　置**	調査後埋め戻し
		遺跡番号	42-2・3・4
報 告 書	平成９年度刊行予定		

立　地

原山支石墓群は島原半島の南部に位置する北有馬町の北西部に位置する。標高約250ｍの丘陵緩傾斜地に立地する。今回調査対象とした原山支石墓第３群は行政上，南高来郡北有馬町坂上下名字原ノ尻川にある。



調査風景

調　査

今回は支石墓の基数確認が主目的であったため，土層観察用のセクションを設けなかった。そのため地山までの深さや土層の堆積状況は不明である。表土の下は赤褐色粘質土の第１層である。

原山第３群支石墓に連なる支石墓群の発見が期待されたが，表土を除去した段階で支石墓の上石らしきものは存在しなかった。

遺構としてはＢトレンチの第１層を15cm掘り下げた段階で調査区の東南において集石遺構とピット群を検出した。集石はトレンチ内で半円形を描くような分布を示す。半円の中心からやや南東にずれたところには長軸3.7ｍ・短軸2.1ｍの楕円形の範囲で炭化物と焼土が混在した部分が存在し，そのまわりには被熱して赤く変色した角礫や，熱により亀裂を生じた礫が存在した。さらにそのまわりには，炭化物を含んだ土が分布する。

トレンチの北側には台形の石塊が存在し，その付近から高杯形土器の脚が出土した。脚はその場に据え置かれて形で出土し，杯部は削平されていたが原位置を保ったままの状態と考えられた。

また，トレンチの東側に10箇のピットを検出した。いずれも直径15～20cmほどの大きさで，黒色土が充填している。当初は杭列のようなものを推定したが，分布に規則性がみられないことから，その性格は不明とせざるをえない。

まとめ

今回の調査は原山第３群支石墓に連なる支石墓群の確認が目的であったが，群集する支石墓は発見できなかった。最後に集石遺構の性格であるが，供献形態である高杯形土器の出土や火の使用などからみて支石墓を対象とした祭祀とも考えられる。なお今回出土した遺構は農業用ビニールシートで被覆した上で埋め戻した。

［調査：古門・小松・荒木］（文責：古門）

㉒ 下茅場遺跡（しもかやば）

所 在 地	西彼杵郡西彼町平山郷字忠五郎353他	**調査主体**	西彼町教育委員会
調査原因	広域営農団地農道建設	**調査面積**	20㎡
調査期間	平成８年11月18日～11月27日	**処　　置**	調査後工事
報 告 書	平成10年度刊行予定	**遺跡番号**	18-18

立　地

本遺跡は西彼杵半島の北端、大村湾北西岸の西彼町平山郷に所在し、綿打川の上流を形成する二つの小河川に挟まれた、標高200ｍほどの山林にある。長崎半島から西彼杵半島にかけて広く分布する「西彼杵型滑石鉱床」を利用した滑石製石鍋製作所跡である。

調　査

本遺跡は，昭和57年県文化課が実施した分布調査の折に発見され，平成６年に広域営農団地農道整備事業に伴う分布調査および範囲確認調査が行われ，保存状態の良好な７か所（Ａ～Ｇ遺構とする）が確認された。露頭（Ａ）・岩陰状（Ｂ・Ｄ）・岩塊（Ｃ・Ｇ）・洞窟（Ｅ）・洞窟状（Ｆ：内部が未掘であるため）の７か所である。

平成７年には遺跡の保存協議が行われ，路線の設計変更により大部分が現状保存されるが，保存が不可能なＤ・Ｇ遺構について平成８年に緊急調査が行われた。

過去の調査を含め本遺跡で採集された未製品は瘤状把手や鍔を有するものなどの破片をあわせて60数点である。型式の異なる石鍋が存在することから，比較的長い時期にわたって製作活動が行われたものと思われる。

下茅場遺跡 Ａ遺構

まとめ

現在西彼杵半島には80か所を超す石鍋製作跡が発見されているが，それらの形態は，①滑石露頭面に採掘痕があるもの，②岩陰状の壁面に採掘痕があるもの，③坑道状に掘り進んだもの、④滑石岩塊に直接採掘痕のあるもの，の４種に大別できる。本遺跡の規模は大瀬戸町ホゲット遺跡には及ばないが，1,500㎡程の狭い範囲に先の４種類の石鍋製作形態を全て保有しており，保存状態がきわめて良好である。調査後，Ｄ・Ｇ遺構は歴史教材として活用するため，町教育委員会が二つの遺構を切り出し，町の施設に展示した。

［調査担当：高野・荒木］（文責：荒木）

Ⅲ　平成８年度　長崎県埋蔵文化財発掘届・発見届一覧

No.	遺跡名	時代	市町村名	原因	結果	57条2	57条3	57条5	57条6	57条	98条2
1	富の原遺跡	縄・弥	大村市	d	A	○					○
2	浦山城跡	中世	石田町	d							○
3	金柑茶屋遺跡	旧・近	平戸市		C	○					
4	下峰原遺跡	旧・縄	諫早市	d	A		○				○
5	陣の内遺跡	弥・古	瑞穂町	d	A		○			○	
6	中の崎遺跡	縄文	平戸市		C	○					
7	ウシワキ遺跡	弥生	平戸市	d	A		○				○
8	家ノ上遺跡	縄・弥	玉之浦町	d	A		○				○
9	黒丸遺跡	縄～近	大村市	d	A	○					○
10	山下遺跡	縄文	大村市	d	A	○					○
11	宝生寺跡	中世	大村市	d	A	○					○
12	佃遺跡	弥～中	国見町	d	A		○				○
13	原の辻遺跡	旧～古	芦辺町	d							○
14	原の辻遺跡	旧～古	芦辺町	d	A		○				○
15	黒丸遺跡	縄～近	大村市	d	B	○					○
16	馬込遺跡	縄～弥	平戸市	d							○
17	大浜遺跡	縄・弥	福江市	d	A		○			○	○
18	姫神社遺跡	縄文	松浦市	d	A	○					○
19	小船遺跡	中世	松浦市	d	A				○		○
20	田口高野遺跡	旧～縄	松浦市	d							○
21	黒丸遺跡	縄～近	大村市	d	A	○					○
22	小路口遺跡	縄文	大村市	d	A	○					○
23	茂木遺跡	江戸	長崎市						○		
24	トラベ遺跡	旧～縄	平戸市		C	○					
25	崎瀬遺跡	旧・縄・古	平戸市	d							○
26	小田貝塚	弥生	大瀬戸町		C	○					
27	上原遺跡	旧石器	佐世保市	d							○
28	大村館墓地遺跡	中世	大村市	d	A	○			○		○
29	潮登遺跡	縄文	平戸市		C	○					
30	下ガヤノキ遺跡	弥・古	峰町	d	A	○					○
31	入口遺跡	縄文	平戸市		C	○					
32	緑ヶ丘遺跡	縄～古	平戸市		C	○					
33	蕨川遺跡	縄文	松浦市	d							○
34	帯取遺跡	縄文	大村市	d	A		○			○	
35	上大垣遺跡	旧～弥	平戸市		A	○					
36	紐差遺跡	縄・古	平戸市		C	○					
37	鷹島町海底遺跡	中世	鷹島町		C		○				
38	万才町遺跡	近世	長崎市	d							○
39	水尻B遺跡	旧石器	松浦市	d							○
40	笛吹遺跡	弥生	小値賀町		A		○				
41	蓮蔵寺遺跡	縄文	大村市	d	A	○					○
42	大野原遺跡	縄・弥	有明町	d	A		○				○
43	桟原城跡	近世	厳原町		D		○				
44	金山遺跡	弥生	国見町	d	A	○					○
45	黒丸遺跡	縄～古・中・近	大村市	d	A	○					○
46	中尾遺跡	弥～平	石田町	d	C	○					○
47	竹松遺跡	縄・中	大村市		D	○					
48	津吉遺跡	旧・縄・弥・中	平戸市		C	○					
49	原の辻遺跡	弥生	芦辺町		C	○					
50	原の辻遺跡	弥生	芦辺町		C	○					
51	原口古墳隣接地		国見町	d							○
52	宿城跡	弥・中	瑞穂町		A	○					
53	原の辻遺跡	古・弥・中	芦辺町	d	A		○				○
54	原の辻遺跡	弥・中	石田町	d	A		○				○
55	原の辻遺跡	弥・中	芦辺町	d	A		○				○
56	興原遺跡	旧・弥・古	石田町		C		○				
57	原の辻遺跡	旧～弥	芦辺町	d	A		○				○
58	宇久松原遺跡	弥生	宇久町	d							○
59	平山遺跡Ａ	縄文	長崎市		C	○					
60	勝山町遺跡	近世	長崎市	d	A		○				○
61	勝尾嶽遺跡	中世	平戸市		C	○					

No.	遺跡名	時代	市町村名	原因	結果	57条2	57条3	57条5	57条6	57条	98条2
62	栢ノ木古墳	縄～弥	松浦市	d	A		○				○
63	原の辻遺跡	弥～中	芦辺町	d							○
64	鶴田遺跡	弥生	石田町	d	A		○				○
65	鶴田遺跡	弥生	石田町	d	A		○				○
66	原の辻遺跡	弥・中	石田町	d	A		○				○
67	出島和蘭商館跡	近世	長崎市	b							
68	瀬古窯跡	近世	長崎市	d						○	
69	大村館墓地遺跡	中世	大村市	d						○	
70	石田城跡	近世	福江市	d							○
71	磨屋町遺跡	近世	長崎市	d					○		○
72	大野台遺跡C地点	縄文	鹿町町		D	○					
73	長田遺跡	旧・縄・弥	鷹島町		D	○					
74	壱岐氏居館跡	奈・平	芦辺町	d	A		○				○
75	山ノ神古墳	古墳	芦辺町	d	A		○				○
76	稗田原遺跡	縄・弥・近	島原市	d							○
77	笛吹浦遺跡	縄文	若松町	d	A		○				○
78	千里ヶ浜遺跡	縄文	平戸市	d	A		○				○
79	上大垣遺跡	旧・縄・弥	平戸市		C	○					
80	松尾遺跡	旧・縄・古	国見町	d	A				○		○
81	守山城跡	中世	吾妻町	d	A		○				○
82	原山支石墓群	縄・弥	北有馬町								
83	越高浜遺跡	縄文	上県町	d	B						○
84	坂遺跡	弥・古	小値賀町		A		○				
85	戸越遺跡	古墳	小値賀町		A		○				
86	尾又遺跡	縄文	小値賀町		A		○				
87	林田遺跡	弥生	小値賀町		A		○				
88	矢櫃遺跡	縄文	小値賀町		A		○				
89	今福遺跡	古・中	松浦市	d	A		○				○
90	柴田遺跡	縄・古・中	大村市		D		○				
91	矢櫃遺跡	縄文	島原市		C		○				
92	三城城跡	中世	大村市		D	○					
93	亀山焼窯跡	近世	長崎市	d	A	○				○	
94	紐差遺跡	縄・古	平戸市		C	○					
95	原の辻遺跡	弥生	芦辺町		C	○					
96	牧第２遺跡	旧石器	大島村		E				○		
97	深堀遺跡	縄・弥・中	長崎市		C		○				
98	五反五畝遺跡	縄文	長崎市		C	○					
99	戸町番所跡	近世	長崎市		C	○					
100	桜Ａ遺跡	縄文	大村市		C	○					
101	津の宮遺跡	弥・古	石田町		C	○					
102	原の辻遺跡	旧・弥	石田町		D	○					
103	富の原遺跡	弥生	大村市	d	A	○				○	
104	高石遺跡	弥生	瑞穂町	d	A	○				○	
105	寺ノ尾Ｃ遺跡	旧・縄・弥	松浦市		D		○				
106	原口山下遺跡	縄文	大村市		D	○					
107	黒丸遺跡	縄～近	大村市	d	A	○					○
108	武辺城跡	中世	佐世保市	b							○
109	五社ノ上遺跡	旧・弥・古	福江市		C		○				
110	橘遺跡	縄・弥	福江市		C		○				
111	三井木場遺跡	縄文	東彼杵町	d	A		○				○
112	中池遺跡	旧・縄	東彼杵町	d	A		○				○
113	蕪池遺跡	旧・縄	東彼杵町	d	A		○				○
114	都城跡	弥・中	芦辺町	d	A		○				○
115	狸山支石墓群周辺		佐々町	a							○
116	黒丸遺跡	縄～近	大村市	d	A	○					○
117	辻遺跡	旧・縄・弥	平戸市	d							○
118	国崎遺跡	縄・古・中	南串山町		D		○				
119	竹松遺跡	弥生	大村市	d	A	○					○
120	都城跡	中世	芦辺町	d							○
121	蔦木遺跡	弥・古	大村市		C		○				
122	富の原遺跡	弥生	大村市		C		○				

No.	遺跡名	時代	市町村名	原因	結果	57条2	57条3	57条5	57条6	57条	98条2
123	富の原遺跡	弥生	大村市		C		○				
124	飯盛遺跡	旧石器	平戸市		C	○					
125	竹松遺跡	縄・弥・古	大村市		C		○				
126	黒丸遺跡	縄～近	大村市		D	○					
127	富の原遺跡	縄・中	大村市	d	A	○					○
128	黒丸遺跡	縄～近	大村市		C	○					
129	紐差遺跡	縄・古	平戸市		C	○					
130	石坂遺跡	縄文	世知原町	d	A		○				○
131	小路口遺跡	縄文	大村市		C		○				
132	栢ノ木遺跡	縄・弥・中	松浦市		D		○				
133	魚目城跡	中世	新魚目町	d	A		○				○
134	津吉遺跡	旧～弥・中	平戸市		C	○					
135	佐賀館跡	中世	峰町	d							○
136	金比羅遺跡	古墳	小長井町		C	○					
137	黒丸遺跡	縄～近	大村市	d	B	○					○
138	黒丸遺跡	縄～近	大村市	b							○
139	辻貝塚	弥生	加津佐町	d							○
140	橘遺跡	弥・古	福江市	d							○
141	黒丸遺跡	縄～近	大村市		C	○					
142	深堀遺跡	縄・弥・中	長崎市		A	○					
143	草ノ尾遺跡	旧石器	吉井町	d							○
144	平野遺跡	古墳	大村市		C		○				
145	立小路遺跡	縄文	大村市		C		○				
146	戸町番所跡	近世	長崎市		A	○					
147	鶴田遺跡	弥生	石田町		A		○				
148	守山条里跡	奈良	吾妻町	d	B		○				○
149	高島分校遺跡	弥生	平戸市		D		○				
150	原の辻遺跡	弥生	石田町	d							○
151	桜町遺跡	近世	長崎市	d	A	○				○	
152	長田山窯跡	近世	波佐見町	a							○
153	石橋遺跡	旧・縄	大島村	d							○
154	蔦木遺跡	弥・古	大村市		D	○					
155	福田城跡	中世	長崎市		C		○				
156	黒丸遺跡	縄～近	大村市	d	B	○					○
157	坂口横道遺跡	縄文	大村市		D	○					
158	嶽ノ下Ａ遺跡	縄・弥	大村市		D	○					
159	竹松遺跡	縄～古	大村市		D	○					
160	浦小川遺跡	弥生	平戸市		C	○					
161	鷹島海底遺跡	中世	鷹島町		A		○				
162	黒丸遺跡	縄～近	大村市	d	B	○					○
163	浦小川遺跡	弥生	平戸市		C		○				
164	坂口横道遺跡	縄・古・中	大村市		D	○					
165	宇田尾遺跡	縄・弥	奈留町		D	○					
166	追廻下遺跡	旧・縄	平戸市		C		○				
167	芝原遺跡Ａ	縄文	長崎市		B	○					
168	津吉遺跡	旧・縄・弥・中	平戸市		C	○					
169	里田原遺跡	弥・中	田平町	d	A	○					○
170	国崎遺跡	縄・古～中	南串山町		D		○				
171	広久保遺跡	旧・縄	江迎町	d							○
172	武部遺跡	縄文	大村市	d	B	○					○
173	上原遺跡	弥生	諫早市		6		○				
174	浜窄遺跡	縄文	三井楽町		C		○				
175	常盤遺跡	縄文	諫早市	d	A	○					○
176	大上戸川条里跡	中・近	大村市		D	○					
177	外輪古墳	古墳	福江市		C		○				
178	黒丸遺跡	縄～古・中・近	大村市		C		○				
179	黒丸遺跡	縄～近	大村市		C	○					
180	鏡山遺跡	旧石器	大村市	d	B	○					○
181	原城跡	近世	南有馬町								
182	下茅場遺跡		西彼町	d							○
183	金田城跡	古・奈・平	美津島町								

No.	遺跡名	時代	市町村名	原因	結果	57条2	57条3	57条5	57条6	57条	98条2
184	紐差遺跡	縄・古	平戸市		C	○					
185	黒丸遺跡	縄～古・中・近	大村市	d	B	○					○
186	嶽ノ下Ａ遺跡	縄・弥	大村市	d	B	○					○
187	岩名遺跡	弥生	大村市	d	B	○					○
188	中之館跡	近世	平戸市		C	○					
189	田井原条里遺跡	中・近	諫早市	d	B	○					○
190	下谷遺跡	縄文	松浦市	d							○
191	松園遺跡	縄文	松浦市	d							○
192	唐人屋敷跡B	近世	長崎市	d							○
193	原の辻遺跡	弥・中	芦辺町	d	A		○				○
194	里田原遺跡	縄・弥・中	田平町	d							○
195	津吉遺跡	旧・弥・中	平戸市		C	○					
196	原の辻遺跡	弥生	芦辺町	d							○
197	桜町遺跡	近世	長崎市		A				○		
198	水崎遺跡	中世	美津島町	d							○
199	中尾遺跡	中世	石田町		D	○					
200	原の辻遺跡	弥生	芦辺町		D	○					
201	黒丸遺跡	縄～近	大村市	d	B	○					○
202	長畑遺跡	旧～弥	鷹島町		C		○				
203	北浦海岸遺跡	縄文	長崎市						○		
204	黒丸遺跡	縄～中	大村市	d	B	○					○
205	岩名遺跡	弥生	大村市		B	○					
206	小曽根鼎山窯跡	近代	長崎市								
207	平野遺跡	旧・縄	福島町								

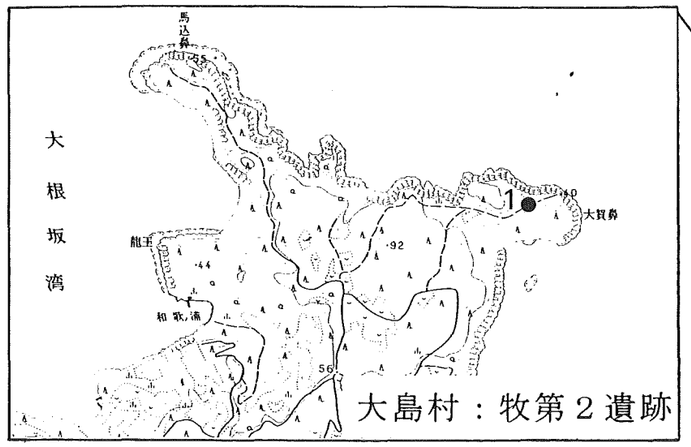
・一覧表の通し番号は，文書の届出順を基準とする。

・時代については，旧石器時代→旧，縄文時代→縄，弥生時代→弥，古墳時代→古，奈良時代→奈平安時代→平，鎌倉時代・室町時代・戦国時代→中世，江戸時代→近世，明治以降→近代とし，二時代あるいは三時代にわたり存在する場合は，縄・弥や旧・弥・古などとし，複数の時代にまたがる場合は縄～古などとする。

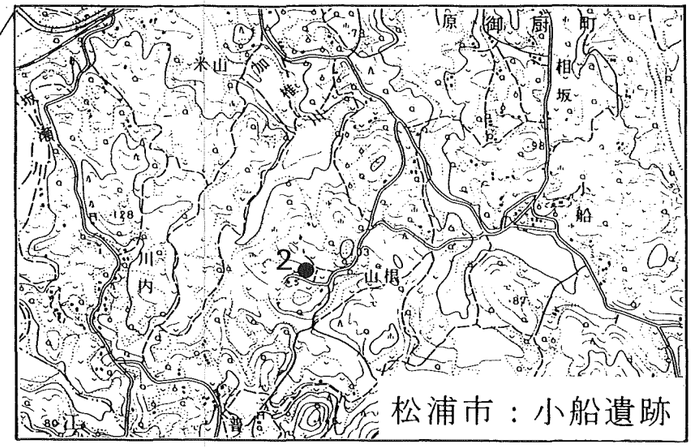
・原因については，ａ→学術調査，ｂ→遺跡整備，ｃ→自然崩壊，ｄ→開発事業に伴う調査を示す。

・結果については，Ａ→発掘調査，Ｂ→範囲確認調査，Ｃ→工事立会，Ｄ→慎重工事，Ｅ→発見届，Ｆ→厳重注意を示す。

Ⅳ　平成８年度新規発見遺跡位置図



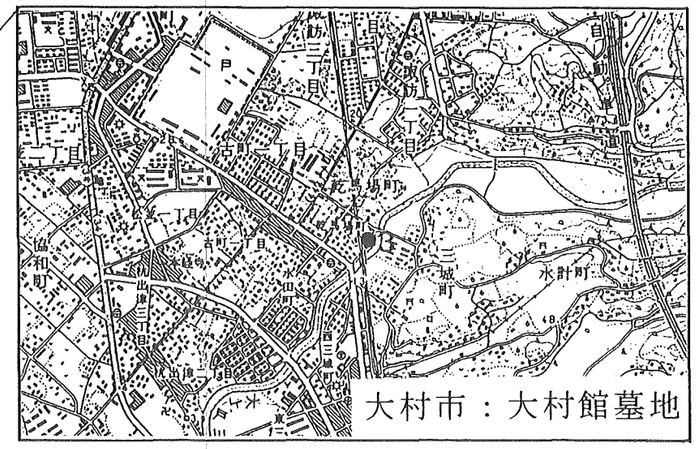
大島村：牧第２遺跡



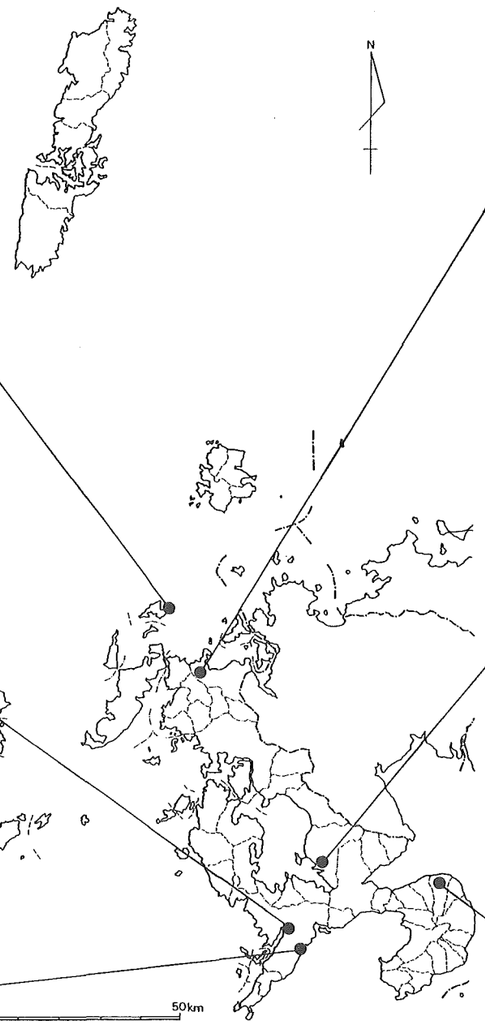
松浦市：小船遺跡

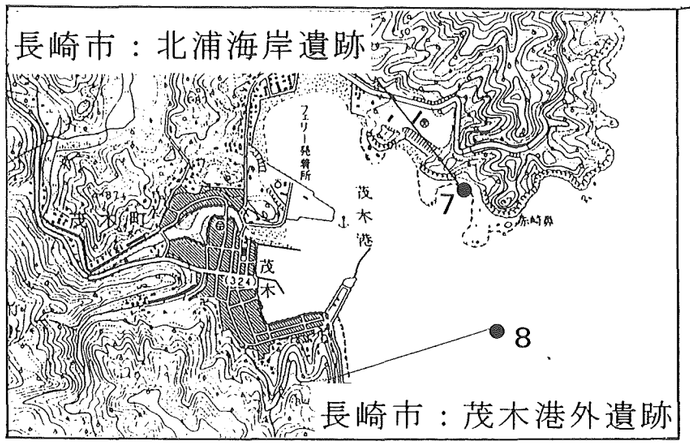
長崎市：桜町遺跡

長崎市：磨屋町遺跡



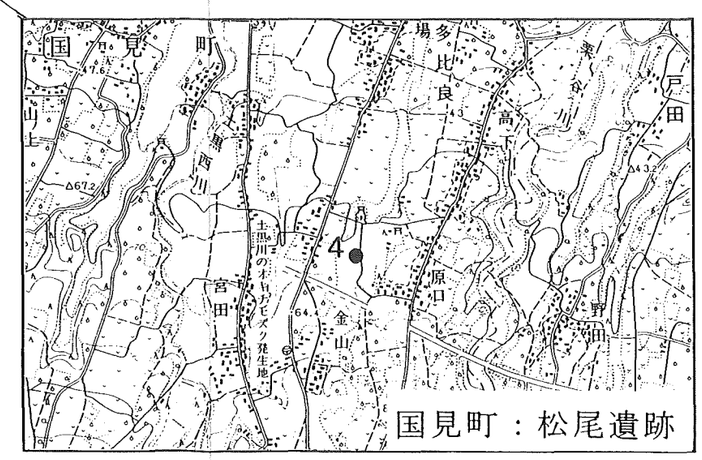
大村市：大村館墓地





長崎市：北浦海岸遺跡

長崎市：茂木港外遺跡



国見町：松尾遺跡

平成８年度新規発見一覧表

番号	遺跡名	所在地	時期	遺構・遺物	調査者
1	牧第２遺跡	北松浦郡大島村西宇戸	旧～縄	石器	大島村教育委員会
2	小船遺跡	松浦市御廚町	旧・中	配石遺構・石器	松浦市教育委員会
3	大村館墓地	大村市乾馬場	中世	石塔	大村市教育委員会
4	松尾遺跡	南高来郡国見町多以良	旧・縄・古	石器・土器	国見町教育委員会
5	桜町遺跡	長崎市桜町	近世	土坑・石列・陶磁器	長崎市教育委員会
6	磨屋町遺跡	長崎市諏訪町	弥・近	石組遺構・陶磁片	長崎市教育委員会
7	茂木港外遺跡	長崎市茂木町	近世	陶磁器	長崎市教育委員会
8	北浦海底遺跡	長崎市北浦町	縄文	石器	長崎市教育委員会

Ⅴ　平成８年度市町村別調査一覧表

No.	遺跡名	所在地	調査主体	調査原因	調査面積	調査期間	処置	遺跡No.	主たる調査者
1	瀬古窯跡	長崎市東町2484-1他	長崎市埋蔵文化財調査協議会	宅地造成	1,400㎡	平成8年4月23日～5月24日	工事着手	1-87	市文化財課宮下雅史
2	万才町遺跡	長崎市万才町1-2	長崎市教育委員会	ビル建設	8㎡	平成8年6月10日	工事着手	1-143	市文化財課扇浦正義
3	勝山町遺跡	長崎市勝山町30	長崎市教育委員会	歩行者通路拡幅	220㎡	平成8年7月15日～7月18日・8月20日～9月11日	工事着手	1-153	市文化財課高田美由紀
4	磨屋町遺跡	長崎市諏訪町7-13	長崎市教育委員会	小学校建設	36㎡	平成8年7月22日～8月8日	埋め戻し	1-155	市文化財課宮下雅史
5	亀山焼窯跡	長崎市伊良林２丁目15	長崎市埋蔵文化財調査協議会	公民館建設	100㎡	平成8年9月17日～9月24日	工事着手	1-110	市文化財課高田美由紀
6	戸町番所跡	長崎市国分町16-5	長崎市教育委員会	個人住宅建設	2㎡	平成8年11月12日	工事着手	1-113	市文化財課宮下雅史
7	唐八景遺跡	長崎市田上町441-33他	長崎市教育委員会	宅地造成	20㎡	平成8年11月25日～11月26日	工事着手	1-104	市文化財課扇浦正義
8	深堀遺跡	長崎市深堀5丁目9	長崎市教育委員会	個人住宅建設	2㎡	平成8年12月13日	工事着手	1-120	市文化財課宮下雅史
9	芝原遺跡Ａ	長崎市中里町1687-2他	長崎市教育委員会	事務所建設	8㎡	平成9年1月21日	工事着手	1-81	市文化財課宮下雅史
10	深堀遺跡	長崎市深堀5丁目138	長崎市教育委員会	公民館建設	4.5㎡	平成9年1月23日	工事着手	1-120	市文化財課宮下雅史
11	桜町遺跡	長崎市桜町7-1	長崎市教育委員会	個人住宅建設	4㎡	平成9年2月24日～2月27日	埋め戻し	1-152	市文化財課高田美由紀
12	唐人屋敷跡	長崎市館内町33-2他	長崎市教育委員会	コミュニティ住宅建設	240㎡	平成9年2月17日～3月19日	埋め戻し	1-146	市文化財課宮下雅史
13	小曽根鼎山窯跡	長崎市小曽根町3-5	長崎市教育委員会	範囲確認	60㎡	平成9年3月10日～3月19日	埋め戻し	1-151	市文化財課高田美由紀
14	平間・城山城跡	長崎市平間町城山	長崎市教育委員会	宅地造成	600㎡	平成9年3月23日～3月31日	埋め戻し	1-78	市文化財課扇浦正義
15	武辺城跡	佐世保市竹辺町	佐世保市教育委員会	遺跡整備	400㎡	平成8年10月8日～11月8日	埋め戻し	61-68	市教委久村貞男
16	下峰原遺跡	諫早市破竜井町	諫早市埋蔵文化財調査協議会	宅地造成	1,400㎡	平成8年7月29日～10月24日	工事着手	84-33	市文化課秀島貞康
17	西常盤遺跡	諫早市正久寺町	諫早市埋蔵文化財調査協議会	工場建設	120㎡	平成9年1月20日～2月6日	工事着手	84-84	市文化課秀島貞康
18	田井原条里遺跡	諫早市仲沖町	諫早市埋蔵文化財調査協議会	アパート建設	340㎡	平成9年2月12日～3月27日	工事着手	84-85	市文化課秀島貞康
19	帯取遺跡	大村市今富町	大村市文化財保護協会	農道整備工事	33㎡	平成8年6月1日～7月23日	本調査実施	77-69	市教委安部憲毅
20	富の原遺跡	大村市富の原2丁目663他	大村市文化財保護協会	工場敷地拡張	2,002㎡	平成8年7月31日～9月26日	工事着手	77-102	市教委大野安生
21	大村館墓地	大村市乾馬場町801-1	大村市文化財保護協会	宅地造成	220㎡	平成8年7月8日～7月17日	工事予定	新規	市教委大野安生
22	富の原遺跡	大村市富の原2丁目843-4	大村市文化財保護協会	個人住宅建設	26㎡	平成8年11月13日	工事着手	77-102	市教委安部憲毅
23	富の原遺跡	大村市富の原２丁目778-1他	大村市教育委員会	工場建設	30㎡	平成8年4月16日～4月17日	工事着手	77-102	市教委安部憲毅
24	黒丸遺跡	大村市黒丸町1515-6他	大村市教育委員会	個人住宅建設	6㎡	平成8年4月18日	工事着手	77-94	市教委安部憲毅
25	宝生寺跡	大村市三城町936-2他	大村市教育委員会	宅地造成	100㎡	平成8年4月16日～4月24日	工事着手	83-17	市教委大野安生
26	黒丸遺跡	大村市富の原2丁目555-1	大村市教育委員会	集合住宅用地造成	12㎡	平成8年4月22日	工事着手	77-94	市教委安部憲毅
27	黒丸遺跡	大村市沖田町706-2	大村市教育委員会	個人住宅建設	20㎡	平成8年5月14日	工事着手	77-94	市教委安部憲毅
28	小路口遺跡	大村市小路口本町448-1	大村市教育委員会	個人住宅建設	16㎡	平成8年5月9日	工事着手	77-104	市教委安部憲毅
29	大村館墓地	大村市乾馬場町801-1	大村市教育委員会	宅地造成	120㎡	平成8年5月22日～6月13日	工事着手	新規	市教委大野安生
30	蓮蔵寺遺跡	大村市今村町233	大村市教育委員会	住宅・倉庫建設	20㎡	平成8年7月8日	工事着手	84-9	市教委安部憲毅
31	黒丸遺跡	大村市宮小路3丁目1972-1他	大村市教育委員会	宅地造成	20㎡	平成8年7月1日～7月4日	工事着手	77-94	市教委大野安生
32	黒丸遺跡	大村市黒丸町511-1	大村市教育委員会	倉庫建設	10㎡	平成8年10月11日	工事着手	77-94	市教委安部憲毅
33	竹松遺跡	大村市竹松町926-1	大村市教育委員会	個人住宅建設	10㎡	平成8年10月1日	工事着手	77-96	市教委大野安生
34	黒丸遺跡	大村市沖田町700-1	大村市教育委員会	宅地造成	20㎡	平成8年10月3日	工事着手	77-94	市教委安部憲毅
35	富の原遺跡	大村市富の原2丁目843-3	大村市教育委員会	個人住宅建設	40㎡	平成8年10月18日・10月21日	工事着手	77-102	市教委安部憲毅
36	黒丸遺跡	大村市黒丸町127-3	大村市教育委員会	アパート建設	10㎡	平成8年11月1日	工事着手	77-94	市教委安部憲毅
37	黒丸遺跡	大村市黒丸町400-2他	大村市教育委員会	宅地造成	30㎡	平成9年1月7日	工事着手	77-94	市教委大野安生
38	黒丸遺跡	大村市沖田町690-1	大村市教育委員会	個人住宅建設	9㎡	平成9年1月7日	工事着手	77-94	市教委安部憲毅
39	武部遺跡	大村市武部町760-15	大村市教育委員会	貸家建設	60㎡	平成9年2月13日～2月14日	工事着手	83-23	市教委安部憲毅
40	鏡山遺跡	大村市東野岳町1680	大村市教育委員会	分譲住宅建設	10㎡	平成9年2月18日	工事着手	77-12	市教委安部憲毅
41	黒丸遺跡	大村市沖田町701他	大村市教育委員会	宅地造成	20㎡	平成9年2月17日	工事着手	77-94	市教委安部憲毅
42	嶽ノ下Ａ遺跡	大村市池田2丁目652-5他	大村市教育委員会	宅地造成	20㎡	平成9年2月18日～2月19日	工事着手	77-117	市教委石橋豊規
43	岩名遺跡	大村市今富町1062他	大村市教育委員会	分譲住宅建設	70㎡	平成9年2月21日～2月27日	工事予定	77-86	市教委石橋豊規
44	ｳｼﾜｷ遺跡	平戸市大石脇町	平戸市教育委員会	公衆便所新設	10㎡	平成8年4月17日	工事着手	54-14	市教委加藤有重
45	馬込遺跡	平戸市紐差町	平戸市教育委員会	県営圃場整備	425㎡	平成8年4月15日～5月29日	工事着手	54-32	市教委加藤有重
46	崎瀬遺跡	平戸市度島町	平戸市教育委員会	農道整備	156㎡	平成8年6月３日～7月23日	工事着手	47-40	市教委加藤有重
47	辻遺跡	平戸市辻町	平戸市教育委員会	県営圃場整備	278㎡	平成8年10月15日～12月14日	工事着手	59-11	市教委加藤有重
48	姫神社遺跡	松浦市星鹿町北久保免宮崎	松浦市教育委員会	宅地造成	20㎡	平成8年5月2日～5月13日	埋め戻し	8-44	市教委中田敦之
49	小船遺跡	松浦市御厨町山根免広久保	松浦市教育委員会	国営農地再編事業	24㎡	平成8年5月13日～5月23日	埋め戻し	新規	市教委中田敦之
50	田口高野遺跡	松浦市御厨町西木場免蛭田	松浦市教育委員会	国営農地再編事業	16㎡	平成8年5月24日～6月4日	埋め戻し	8-58	市教委中田敦之
51	蕨川遺跡	松浦市御厨町大崎免フウチン他	松浦市教育委員会	国営農地再編事業	16㎡	平成8年6月5日～6月7日	埋め戻し	8-53	市教委中田敦之
52	水尻Ｂ遺跡	松浦市御厨町大崎免俵場他	松浦市教育委員会	国営農地再編事業	120㎡	平成8年6月7日～7月26日	埋め戻し	8-52	市教委中田敦之
53	栢ノ木遺跡	松浦市志佐町池成免濱井出	松浦市教育委員会	簡易水道新設工事	127㎡	平成8年8月26日～10月11日	工事着工	8-27	市教委中田敦之
54	今福遺跡	松浦市今福町仏坂免五百田他	松浦市教育委員会	国営農地再編事業	2,580㎡	平成8年11月5日～平成9年2月18日	工事着工	なし	市教委中田敦之
55	松園遺跡	松浦市調川町上免里	松浦市教育委員会	国営農地再編事業	20㎡	平成9年2月24日～3月3日	埋め戻し	なし	市教委内野義
56	下谷遺跡	松浦市御厨町西木場免下谷	松浦市教育委員会	国営農地再編事業	32㎡	平成9年2月24日～3月6日	埋め戻し	8-55	市教委中田敦之
57	下茅場遺跡	西彼町平山郷353-76	西彼町教育委員会	広域農道建設	20㎡	平成8年11月1日～12月10日	工事着工	18-18	県文化課荒木伸也
58	三井木場遺跡	東彼杵町中岳郷三井木場	東彼杵町教育委員会	道路建設	8㎡	平成8年10月1日～10月16日	埋め戻し	72-51	町教委下田章吾
59	中池遺跡	東彼杵町中岳郷ブクデ	東彼杵町教育委員会	道路建設	16㎡	平成8年10月1日～10月16日	埋め戻し	72-50	町教委下田章吾
60	蕪池遺跡	東彼杵町蕪郷樫井川	東彼杵町教育委員会	道路建設	12㎡	平成8年10月1日～10月16日	埋め戻し	72-47	町教委下田章吾
61	長田山窯跡	波佐見町字長田山	波佐見町教育委員会	町内古窯跡調査	74,3㎡	平成7年11月18日～平成8年1月7日	埋め戻し	67-25	町教委中野雄二
62	大野原遺跡	有明町大野名字東大野原	有明町教育委員会	文化会館建設	5,000㎡	平成9年1月16日～平成9年12月	工事着工	50-11	町嘱託職員宮川泰男
63	松尾遺跡	国見町多比良字松尾	国見町教育委員会	圃場整備事業	400㎡	平成9年1月10日～3月31日	工事着工	新規	町教委辻田直人
64	金山遺跡隣接地(松尾遺跡)	国見町多以良字松尾	国見町教育委員会	圃場整備事業	56㎡	平成8年5月27日～7月11日	工事着工	32-21	町教委辻田直人
65	原口(八反田)古墳隣接地	国見町多以良字八反田	国見町教育委員会	圃場整備事業	24㎡	平成8年7月5日～7月30日	工事着工	32-23	町教委辻田直人
66	金山遺跡	国見町金山名字緒鬼塚	国見町教育委員会	ｶﾞｿﾘﾝｽﾀﾝﾄﾞ建設	28㎡	平成8年7月26日～8月7日	工事着工	32-21	町教委辻田直人
67	佃遺跡	国見町神代東里	国見町教育委員会	圃場整備事業	3,000㎡	平成8年4月8日～平成9年3月31日	工事着工	新規	町教委辻田直人
68	守山城跡	吾妻町古城名	吾妻町教育委員会	公園整備	88㎡	平成8年7月22日～8月22日	埋め戻し	85-26	町教委江崎亮太
69	山田条里跡	吾妻町古城名	吾妻町教育委員会	区画整理事業	36㎡	平成9年2月27日～3月21日	工事着工	85-24	町教委江崎亮太
70	原城跡	南有馬町	南有馬町教育委員会	環境整備	470㎡	平成8年9月9日～平成9年1月20日	埋め戻し	41-６	町教委松本慎二
71	日野江城跡	北有馬町谷川名	北有馬町教育委員会	遺跡整備	428㎡	平成8年9月9日～平成9年3月31日	埋め戻し	42-9	町教委木村岳士
72	石橋遺跡	世知原町2392-3他	世知原町教育委員会	溜池周辺整備	20㎡	平成8年10月28日～11月６日	埋め戻し	59-15	県教委塩塚浩一
73	戸越遺跡	小値賀町前方郷字木場	小値賀町教育委員会	県営畑総事業	200㎡	平成8年6月18日～7月7日	工事着工	なし	町教委塚原博
74	尾又遺跡	小値賀町笛吹郷字尾又	小値賀町教育委員会	県営畑総事業	144㎡	平成8年7月8日～7月19日	工事着工	なし	町教委塚原博
75	坂遺跡	小値賀町前方郷字坂	小値賀町教育委員会	県営畑総事業	304㎡	平成8年10月9日～11月28日	工事着工	なし	町教委塚原博
76	矢櫃遺跡	小値賀町浜津郷字矢櫃・吉田	小値賀町教育委員会	県営畑総事業	144㎡	平成8年8月5日～9月27日・11月11日～11月28日	工事着工	49-35	町教委塚原博

No.	遺跡名	所在地	調査主体	調査原因	調査面積	調査期間	処置	遺跡No.	主たる調査者
77	林田遺跡	小値賀町浜津郷林田	小値賀町教育委員会	県営畑総事業	120㎡	平成8年9月12日～9月27日	工事着工	なし	町教委塚原博
78	笛吹遺跡	小値賀町笛吹郷1976-2	小値賀町教育委員会	公営住宅建設	188㎡	平成8年4月11日～6月12日・7月20日～7月24日	工事着工	49-24	町教委塚原博
79	野首遺跡他	小値賀町町内各地	小値賀町教育委員会	県営畑総事業他		平成8年4月1日～平成9年3月19日		49-4他	町教委塚原博
80	宇久松原遺跡	宇久町平郷	宇久町教育委員会	主要遺跡確認調査	300㎡	平成8年7月15日～8月9日	埋め戻し	50-23	県文化課川道寛
81	里田原遺跡	田平町里免	田平町教育委員会	個人住宅建設	97,6㎡	平成8年12月27日～平成9年1月17日	工事着工	51-114	町教委馬場聖美
82	里田原遺跡	田平町里免	田平町教育委員会	国営圃場整備	150㎡	平成9年2月7日～3月28日	埋め戻し	51-114	町教委馬場聖美
83	広久保遺跡	江迎町箙尾免	江迎町教育委員会	国営農地再編事業	80㎡	平成8年12月9日～12月20日	埋め戻し	54-9	県文化課藤田和裕
84	猪調地区	江迎町猪調免	県文化課	国営農地再編事業	68㎡	平成9年1月20日～2月5日	工事着工	なし	県文化課小松旭
85	小川内地区	江迎町小川内免	県文化課	国営農地再編事業	20㎡	平成9年2月10日～2月14日	工事着工	54-10	県文化課東貴之
86	草ノ尾遺跡周辺	吉井町草ノ尾免	吉井町教育委員会	農業基盤整備	44㎡	平成8年11月11日～11月19日	工事着工	58-4	県文化課東貴之
87	魚目城跡	新魚目町	新魚目町教育委員会	林業構造改善事業	58㎡	平成8年10月28日～11月1日	埋め戻し	29-16	県文化課福田一志
88	原の辻遺跡(不條地区)	壱岐郡芦辺町深江鶴亀	芦辺町教育委員会	範囲確認調査	287㎡	平成8年4月22日～6月11日	埋め戻し	17-21	町教委松永泰彦
89	原の辻遺跡(不條地区)	壱岐郡芦辺町深江鶴亀	芦辺町教育委員会	緊急発掘調査	445㎡	平成8年6月３日～10月21日	工事着工	17-21	町教委松永泰彦
90	都城跡	壱岐郡芦辺町湯岳今坂	芦辺町教育委員会	緊急発掘調査	3，000㎡	平成8年9月２日～12月28日	工事着工	16-249	町教委松永泰彦
91	浦山城跡	石田町池田東触字浦山	石田町教育委員会	住宅建設	252㎡	平成8年4月８日～７月４日	埋め戻し	19-1	町教委河合雄吉
92	原の辻遺跡	芦辺町深江栄触字田中	石田町教育委員会	溜池掘削工事	336㎡	平成8年5月14日～６月19日	本調査実施	17-22	町教委河合雄吉
93	中尾遺跡	石田町池田東触中尾	石田町教育委員会	範囲確認調査	72㎡	平成8年8月5日～10月11日	埋め戻し	19-2	町教委河合雄吉
94	原の辻遺跡	芦辺町深江栄触字田中	石田町教育委員会	溜池掘削工事	1,200㎡	平成8年10月9日～12月6日	工事着工	17-22	町教委河合雄吉
95	鶴田遺跡	石田町池田仲触字大桑	石田町教育委員会	圃場整備事業	125㎡	平成8年12月9日～12月19日	工事着工		町教委河合雄吉
96	金田城跡	下県郡美津島町黒瀬	美津島町教育委員会	遺跡整備	130㎡	平成8年9月24日～10月4日・10月14日～11月1日	埋め戻し	10-12	県文化課古門雅高
97	下ガヤノキ遺跡	上県郡峰町大字三根	峰町教育委員会	宅地造成	99,5㎡	平成8年6月３日～7月5日	一部消滅	6-4	町教委阿比留伴次
98	佐賀館跡	上県郡峰町大字佐賀	峰町教育委員会	緊急発掘調査	128㎡	平成8年11月18日～12月20日	埋め戻し	6-20	町教委阿比留伴次

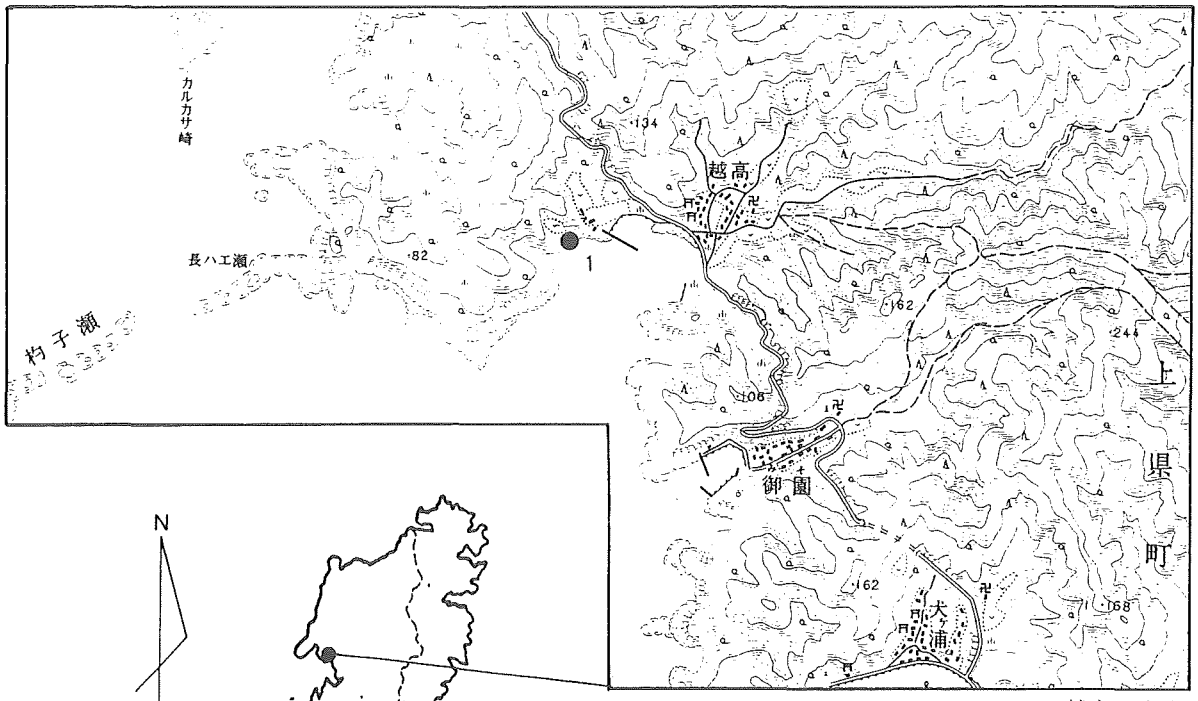
・本表は平成９年12月に実施したアンケート調査に基づいて集計したものである。

・遺跡名については，各市町村で使用しているものを掲載した。

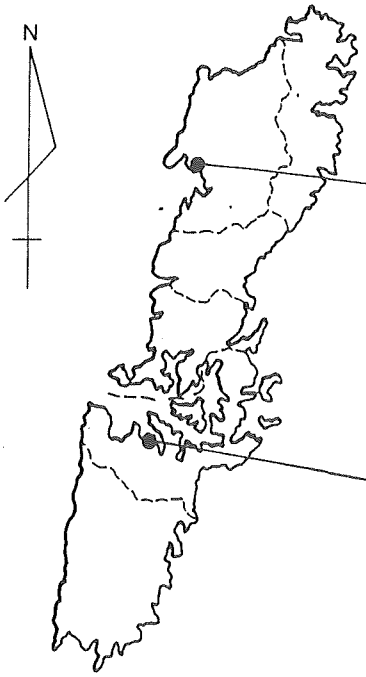
・県遺跡番号は，市町村番号と地図番号とが混在している。

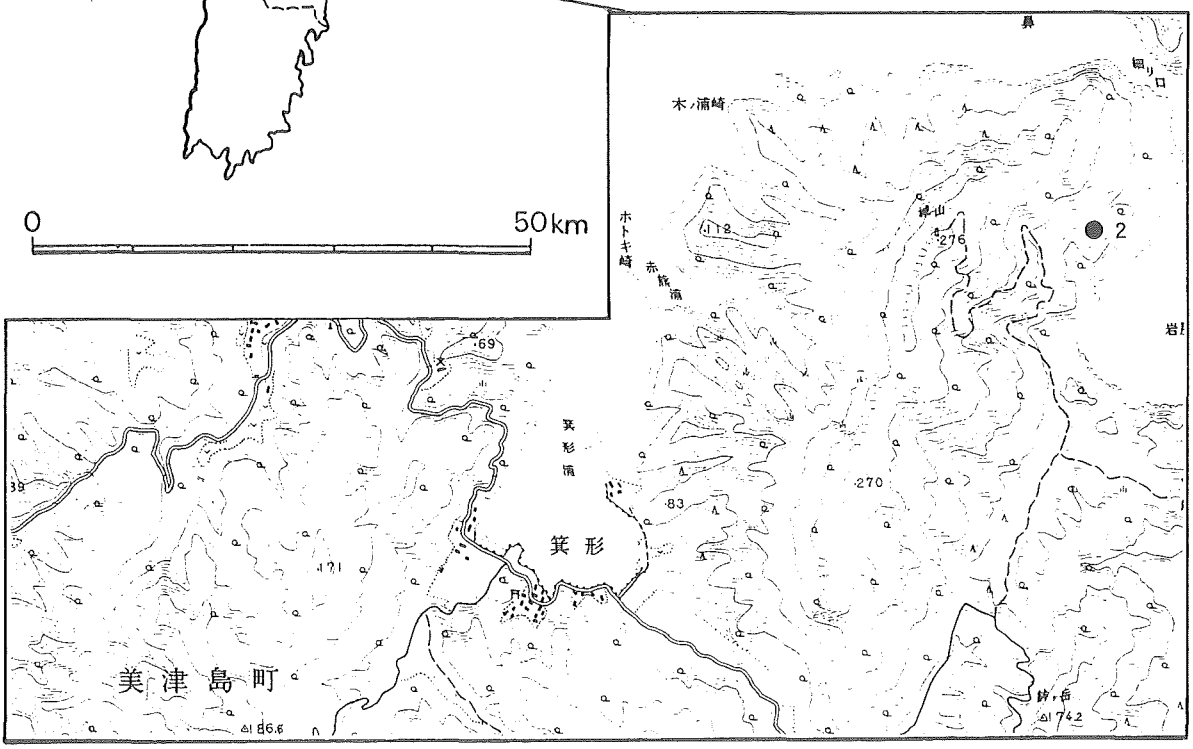
・主たる調査者は１名のみ記載した。

Ⅵ　平成８年度調査遺跡地図

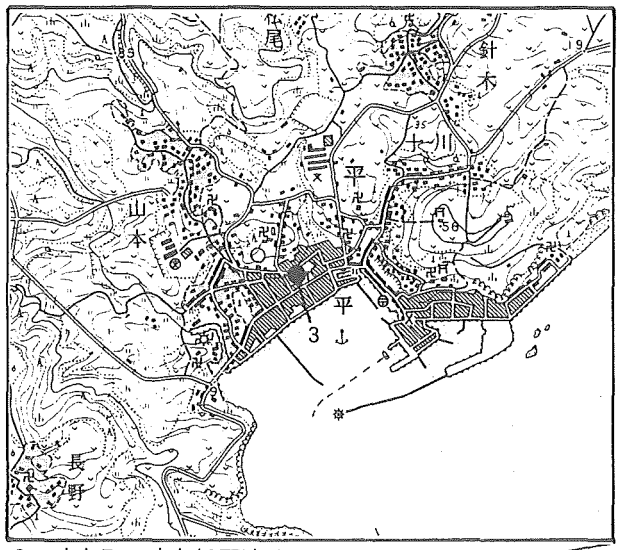


1．上県町：越高浜遺跡

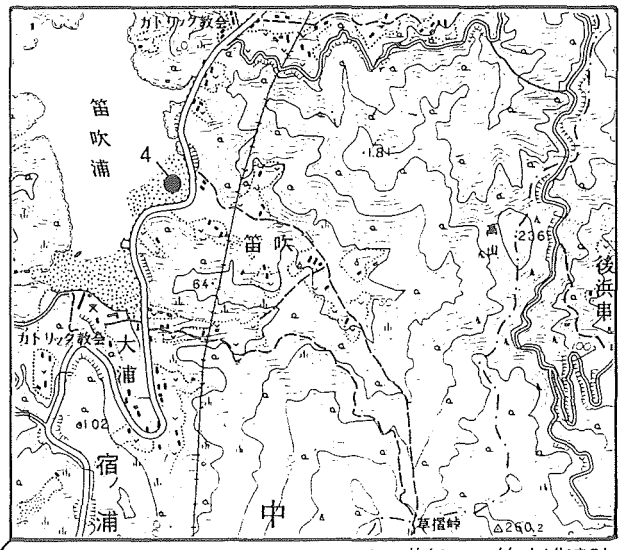




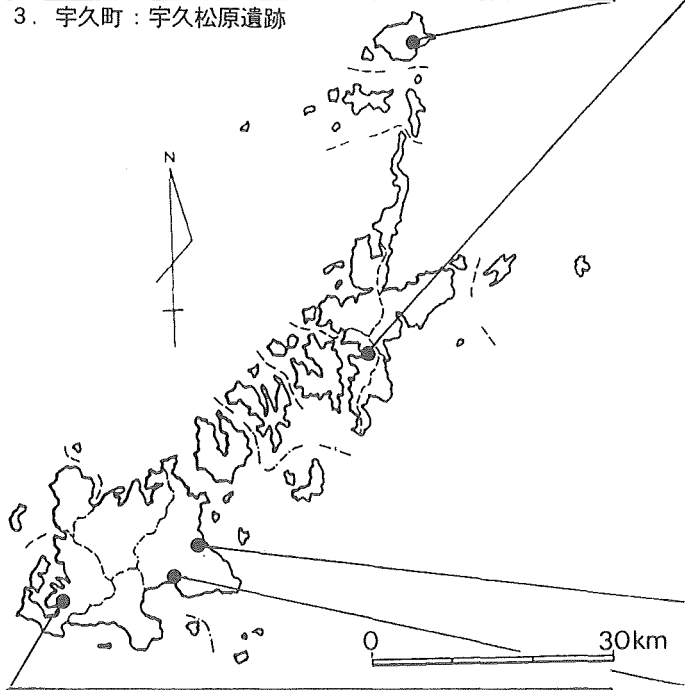
2．美津島町：金田城跡

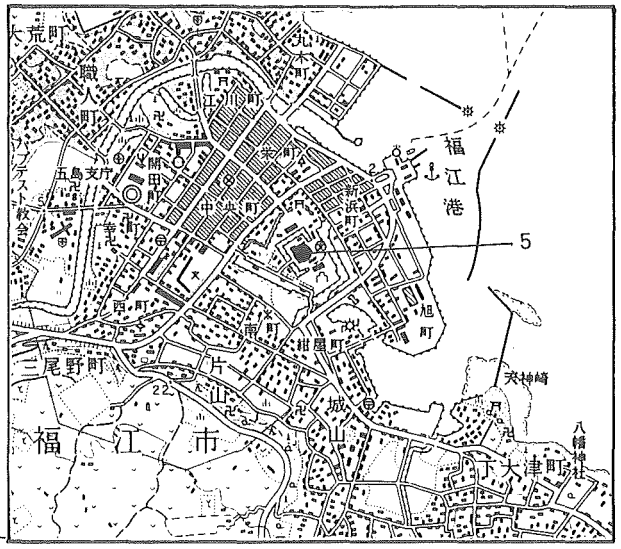


3．宇久町：宇久松原遺跡

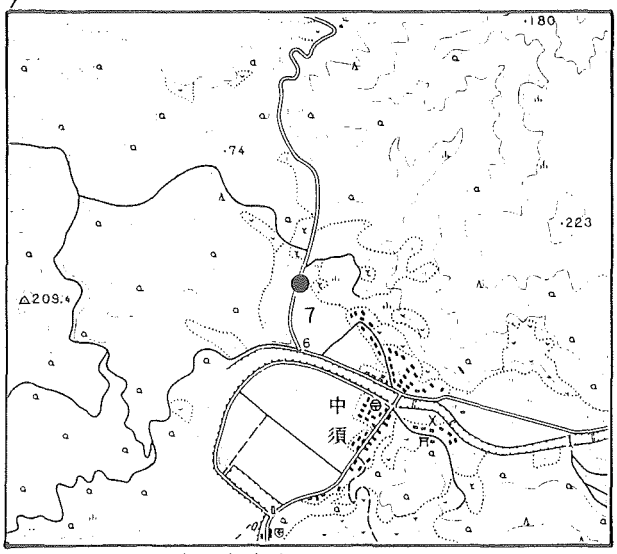


4．若松町：笛吹浦遺跡

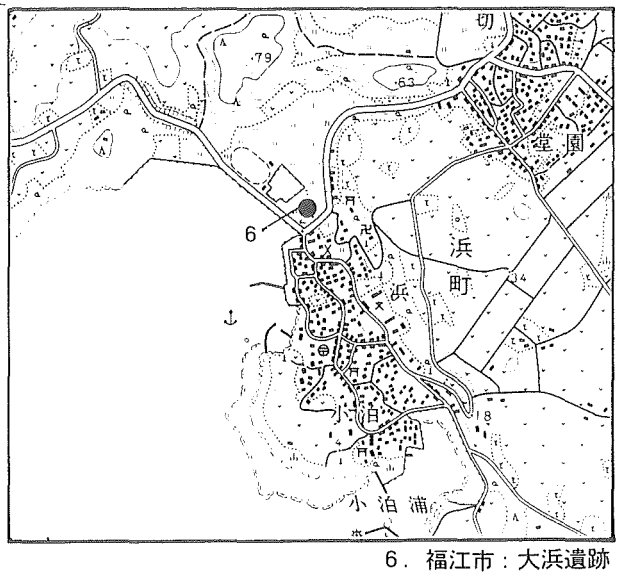




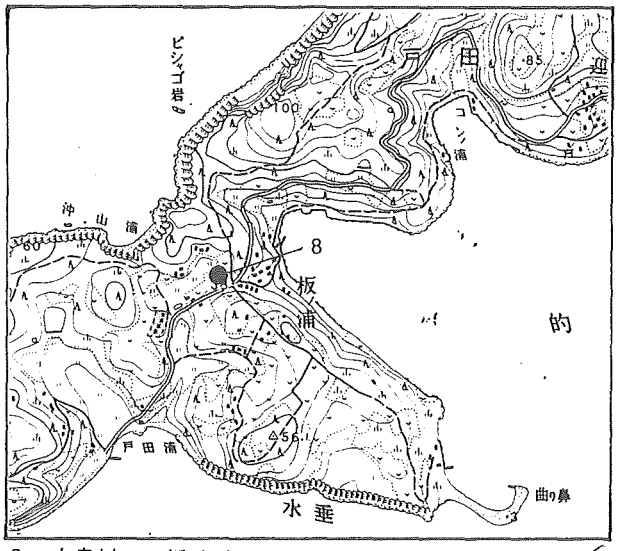
5．福江市：石田城遺跡



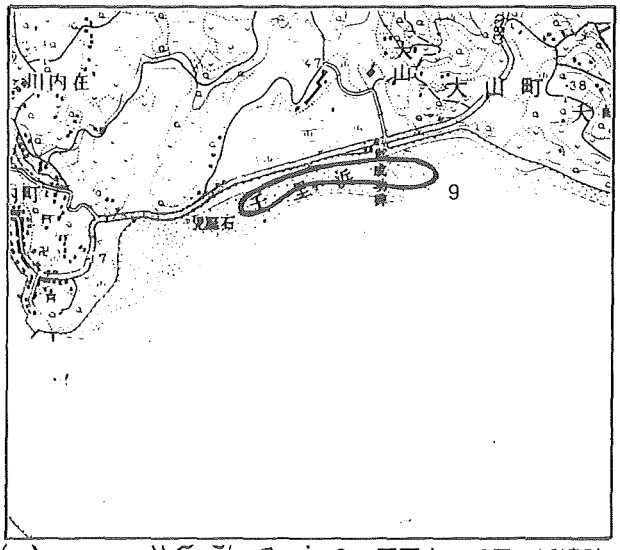
7．玉之浦町：家の上遺跡



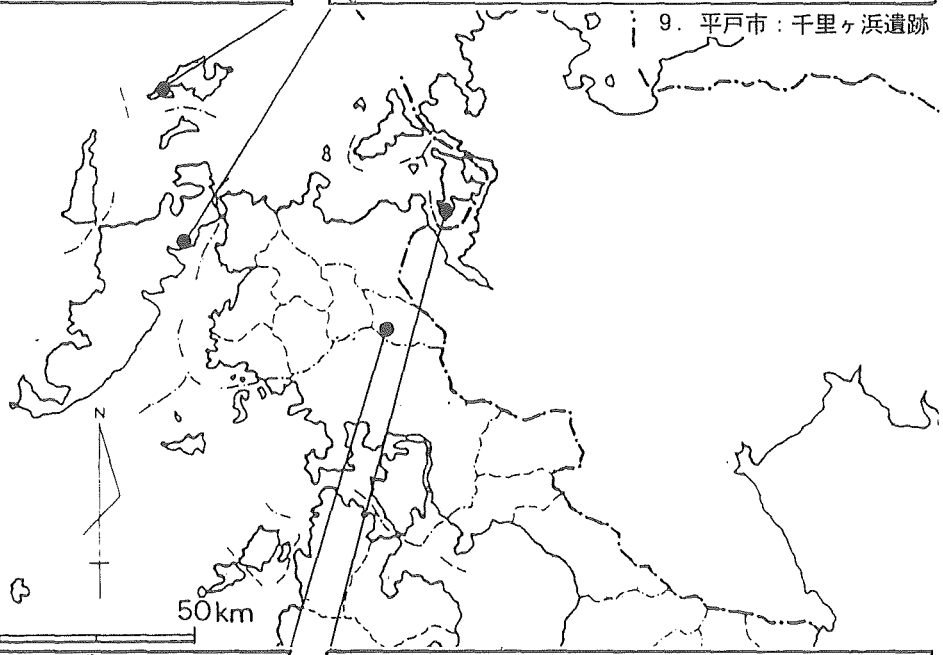
6．福江市：大浜遺跡

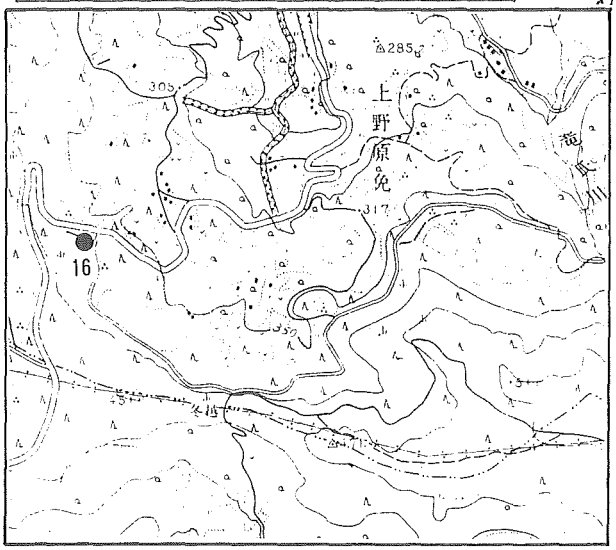


8．大島村：石橋遺跡

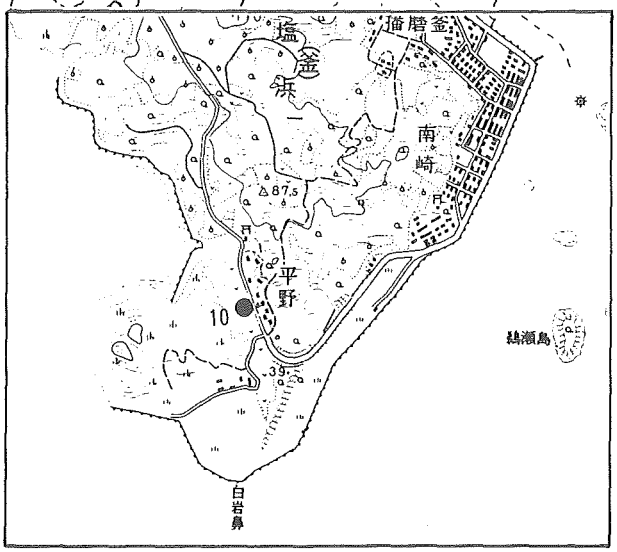


9．平戸市：千里ヶ浜遺跡

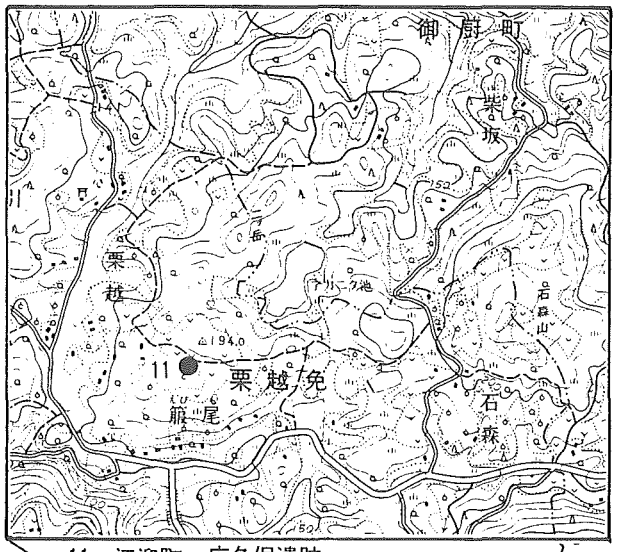




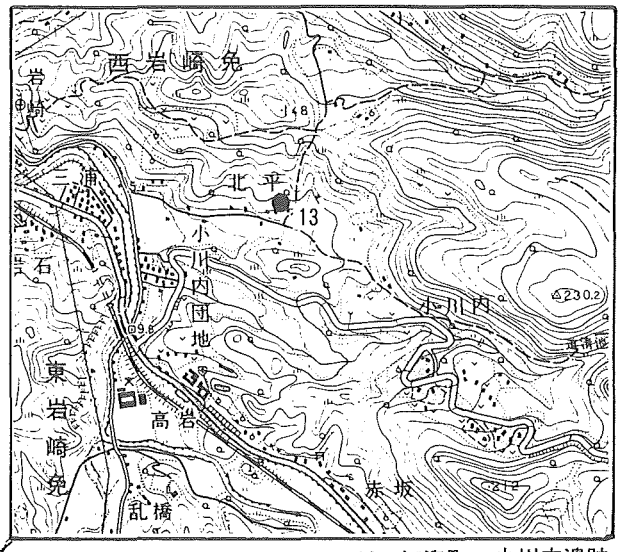
16．世知原町：石坂遺跡



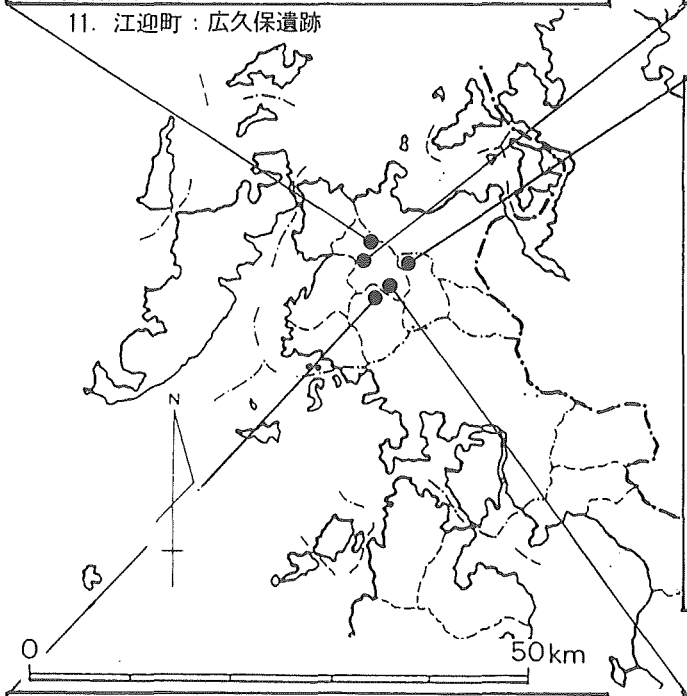
10．福島町：平野遺跡

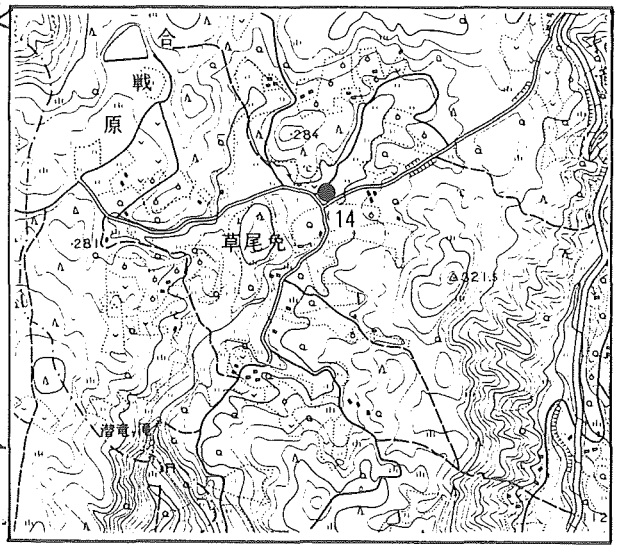


11. 江迎町：広久保遺跡

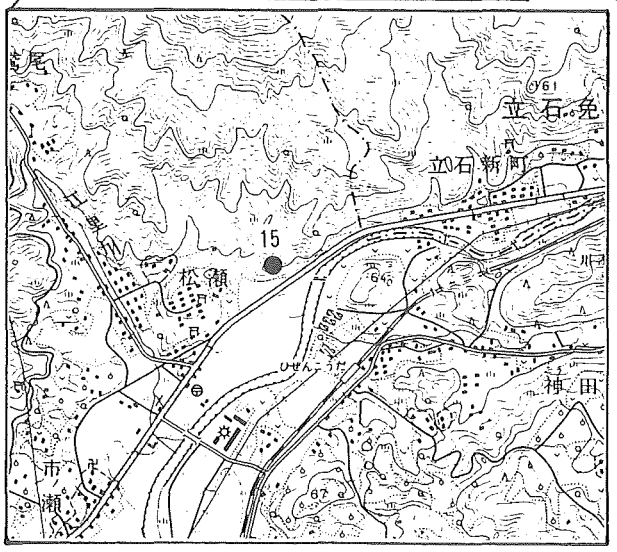


13. 江迎町：小川内遺跡

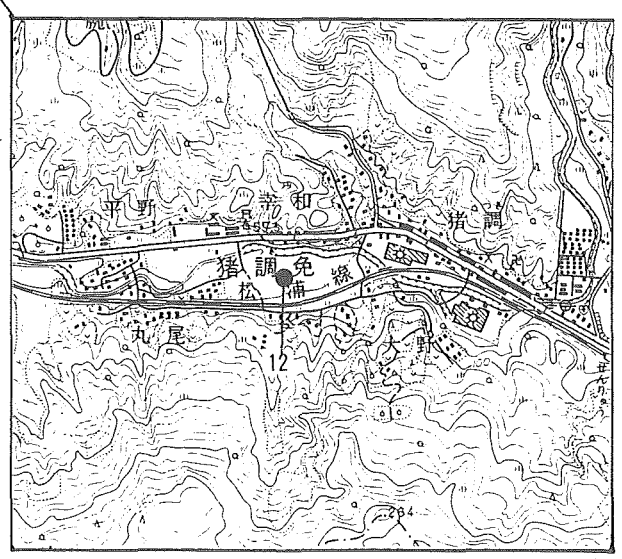




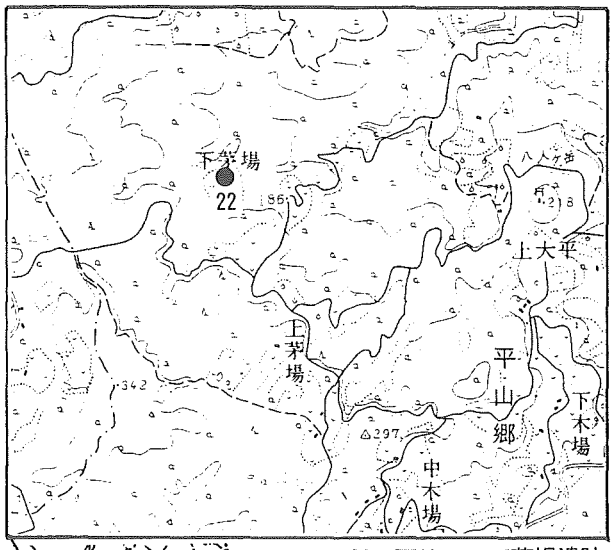
14. 吉井町：草ノ尾遺跡



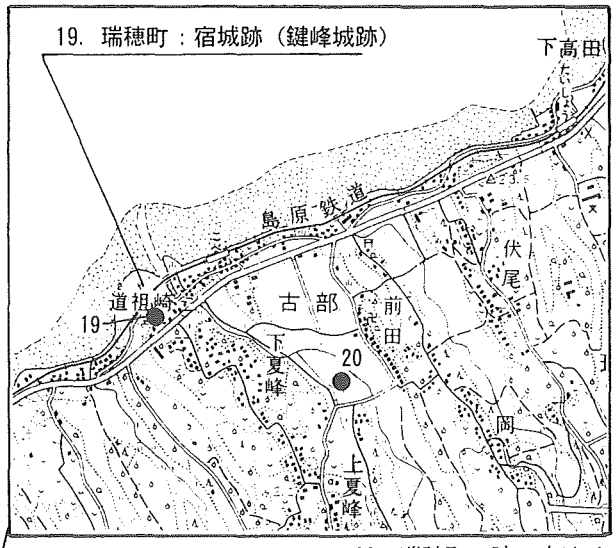
15. 佐々町：狸山支石墓群周辺



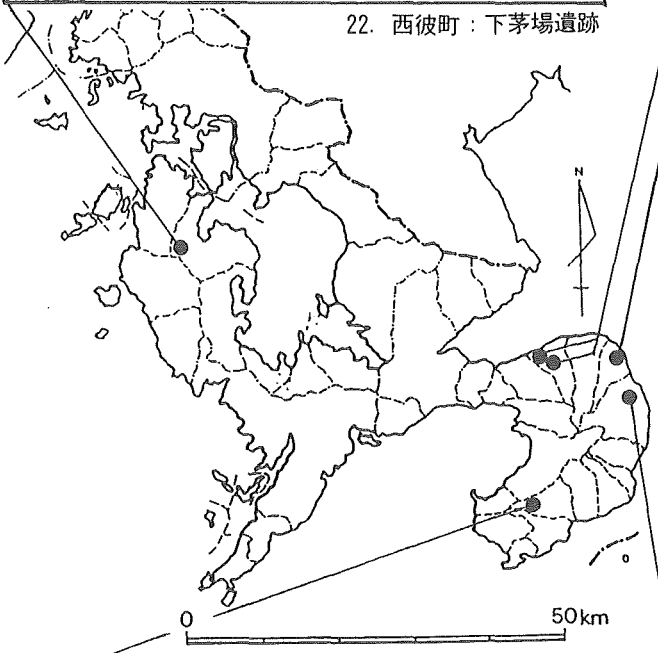
12. 江迎町：猪調遺跡

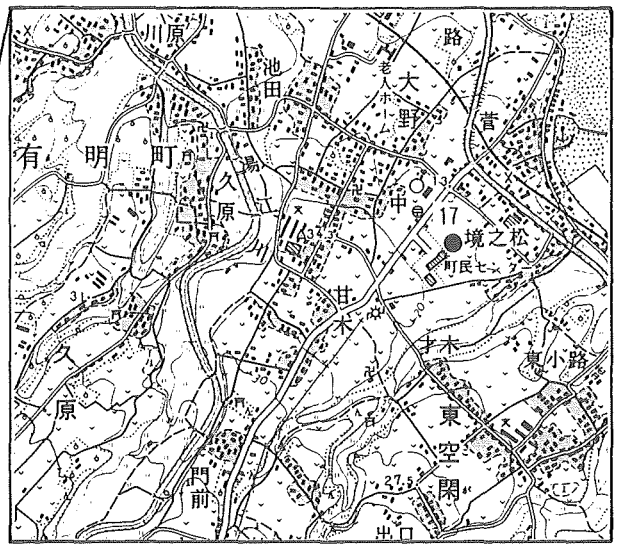


22. 西彼町：下茅場遺跡

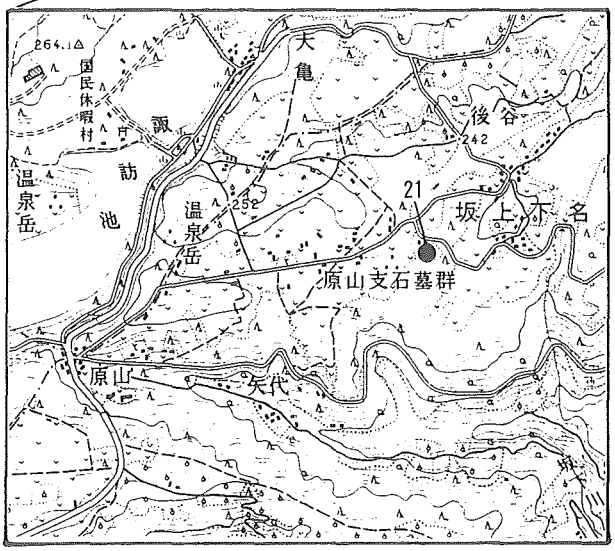


20. 瑞穂町：陣の内遺跡

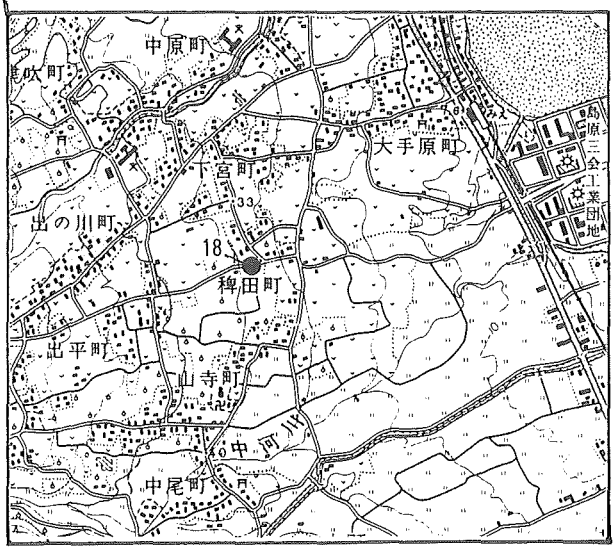




17. 有明町：大野原遺跡



21. 北有馬町：原山支石墓群



18. 島原市：稗田原遺跡

長崎県文化財調査報告書　第148集

長崎県埋蔵文化財調査年報５

（平成８年度調査分）

平成10年３月31日

発　　行　長崎県教育委員会

長崎市江戸町２－１３

印　　刷　㈱クイックプリント

長崎市樺島町８番12号